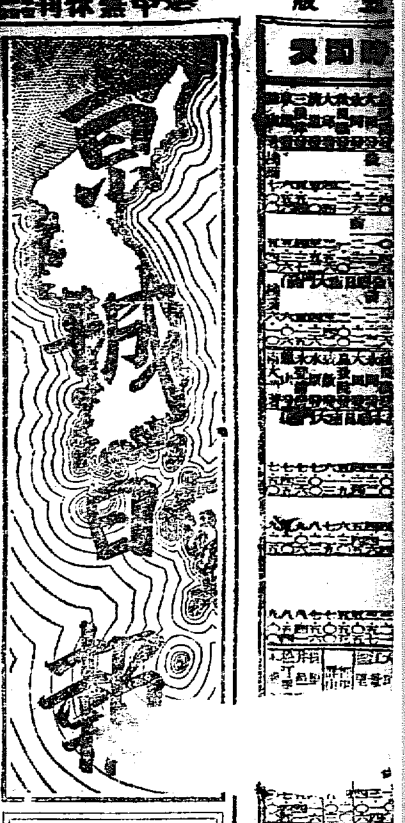


一月三日

戰國の新年を迎へ帝國の天職を論す（一）

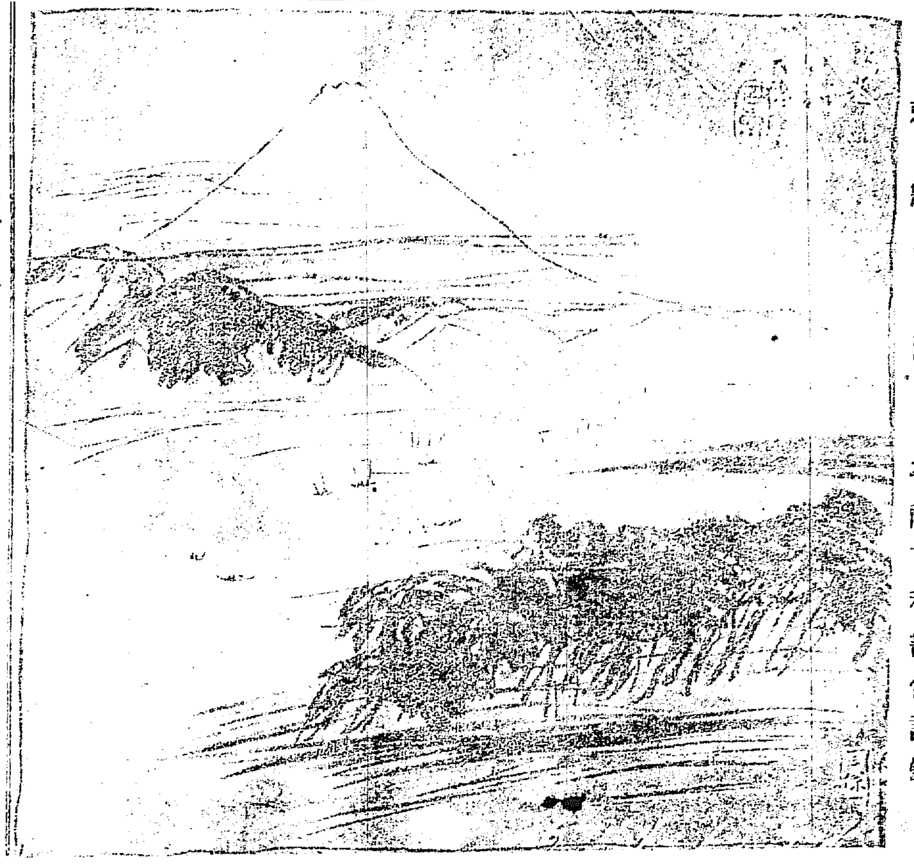
戰局の推移と國際政局の變化（上）

歐洲大戰は、大正四年七月より年を閲し、同七年に入り、屢風侵お、龍爭虎擲の觀を呈しつゝあるも、其の勝敗如何は、未だ逆じめ睹る可からざるものあり。吾人は戊午の新年を迎ふるに當り、昔の志士が詠じたる「耐武親戊午年」の句を誦し、感慨禁ずる能はざるもの無くむばあらず。大戰四星霜の間、吾人が注視を離つ可からざる問題は、內外錯綜、一にして足らずと雖も、其の最も重大なる問題は、戰局の日に推移しつゝ行くと同時に、國際政局の日々變兆を示しつゝあること、其の一也。國際政局の新兆を示しつゝあると同時に、東邦問題の範圍益々擴大せられつゝあること、其の二也。東邦問題の範圍益々擴大せられつゝあると同時に、帝國の任務益々重きを加へつゝあること、其の三也。

大戰開始の初めに於ては、聯合國は露國を中堅として、獨墺の二國之に應じ、英、佛、白の諸國之に呼應したるの觀ありしも、今や英國を主力として、佛國之に踵ぎ、尋で米國の參戰と爲り、之に參加したる邦國は、殆んど二十に垂むとしつゝあるに非ずや。戰の第一年より第二年に亙りて、英國は絶大の犧牲を以て制海を封鎖し、佛國はマルヌに克ち、ヴェルダンに克ち、露國はガリシヤに進撃し、伊國は墺國に對して攻勢を執り、恰も獨墺を包圍せむとするの形を示したるが如く見ゆるはあらざりしも、獨逸は之に屈撓せず、羅馬尼參戰し、巴爾幹は局先づ崩れ、伊國戰で大敗し、露國は革命勃發四出、救ふ可からざる狀態に陷り、今や聯合國の位置は危殆の極に達しつゝあるに非ずや。

戰局の推移と同時に、國際政局も亦、隨て未曾有の大變兆を示し、大戰の第三年末に及び、露國革命の大波瀾を演じ、露國は聯合國として中堅を失し、今や休戰條約を締結し、單獨講和の交渉を開始せむとするに至りたるに非ずや。露國の革命に踵いで、米國の參戰を逞し、米國は獨立戰爭當時の精神を發揮して、聯合國の後援と爲り、無限の財源と、其の兵力とを注して最後の勝利を占めずむば止まざる決意を示しつゝあるに非ずや。支那も聯合國の要求に應じて參戰せざる可からざるに至りたるに非ずや。

露國の革命と、米國の參戰、支那の參戰とは、戰局の推移に伴ふ國際政局の最も大なるものなり。而して此の局の結果が如何なる影響を東邦政局の將來と與ふる乎、如何なる影響を日本の將來に與ふる乎に至りては、世界の大勢に留意する經世家の宜しく考慮せざる可からざる問題にして、亦實に吾人が新年を迎ふるに當り、一日も懷に忘るゝ能はざる國家的重大問題たらずむばあらず。



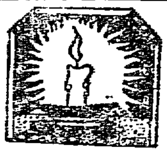
勅題「海邊松」 平福百穗畫伯試筆

民間說話界に於ける馬（一）

田中雪人

馬は古生物學上からは地質の方での所謂第三紀層の中に、その先祖の最も古い遺骨を發見することが出來て、それ以來の進化の跡をば、可なり正確に辿りうるのださいふ事、及び當時の馬の大きさは殆んど猫程で、趾が五つに分れてゐたといふ事は、嘗て耳にしてゐたところであるが、果してさうならば、馬の姿形といふものは、頗る悠久な古からの型が、科學者の眼にはちやんと極印付きになつて出來上つてゐると謂はねばならない。ところが人の精神といふものは至極勝手に出來てゐるものだから、實際の事實がさうであらうが有るまいが、そんな事には一向にお構ひなく種々雜多な創造をやる。此亞に於てか馬に翼が生へたり、人間に口を利いたり、時には人身に生擬つたり、又或時は人間以上の神樣にまで祭上げられることすらある。これは世界通有の現象で、吾々は世に到るところの神話、傳說、童話、寓話等を初め其他種々な方面の口牌記錄にさうした說話を見出すことが出來る。次に揭げるのも、さうした資料から思付くまゝに、唧嗟の間に寄集めて書連ねたもので、學究的の理屈を言ふつもりではない。千歲の初春に際して、讀者の一粲に供することが出來ればそれで滿足である。

話は先づ日本から始める。日本で一番古く馬に關する話の記錄に現れてゐるのは、死體化生傳說として、馬の起源を說いた日本書紀の一書の記事で、其中には保食神の條に月夜見尊が、後世の穀の神と崇められる保食神を殺された時に、その神の頂から牛馬が化生したれたと說かれてある。それから之は古事記にも日本書紀にも出てゐる記事であるが、素盞嗚尊が、御姉君天照大神の神衣を織られてゐる、御織屋の屋根を穿つて、天井から天斑駒を逆剝ぎに剝ぎて投入れられたので、大御神には御憤怒の餘り、天石窟にお隱になつたとある。此二つは日本の馬に關する傳說の最古のものに屬する。第三には、八千矛神、即ち大國主命が、その嫡后須勢理毘賣命の嫉妬を逃出でられて、出雲國から倭國に上り給ふ折に、片御手を御馬の鞍に繋けて、歌を歌はれたと古事記に見れて居る。此等は何れも神代に屬するが、馬そのものだけを切離して考へて見ると、存外に神秘的の靈性を持つてゐない。馬は神秘の衣を著せられたのは寧ろ後代で、支那の思想や佛教の輸入以後のことらしい。



どうして

布施生譯 三十

鹿女は頷きながら聲を潜めて、『おや貴女知つてるのね』なあに僕が知つてる譯ぢやあ無いがね。きあ大抵目當はついたやうなものふん其お客樣が今日谷さんを訪ねて來んだね。』『さうよ、そしてね、私が察した所ではあのお客樣はどうやら御自分がお暇するまでには旦那樣が歸つて被在るのを知つてらしたやうだつたわ。』凹栖は聞耳立てゝ、『おい確固しろ、もつと委細から譯の分るやうに話してくれないかい。』餘りだらしが無いのでさらく、する小言を言はれてゝ鹿女は怯ますく、『だから話してゐるぢや無いか、貴方こそ沈着いて聞きもしないで、實は今日三時頃、私が御二階の掃除當番でお客間の外まで往つたのよ。すると中はお客樣で何か谷さんと話して被在る聲が聞えるぢやありませんか、何の氣なしに一寸立聞すると其お客樣は大層馴々しく谷さんと古馴染でもあるやうな話振なのよ、谷さんは引換へて堅固しく何だか餘りお客樣を歡迎して被在らないやうな樣子なの、しかしお客樣は一向平氣で色々うまい事を言續けてね聞いてゐるとお客樣は谷さんが大好で、妹が姉に會つたやうもつと緩然話したいが今は對手が忙がしいので又お暇な時に來て昔噺をしましやうねと言つたやうな調子なの、それだのに谷さんの方はとんと不愛想で對手を嫌つてゐるのを露骨にしてさ、何やら言ひかけた所へ旦那樣が黙然手提革囊を小脇に戶外から這入つて被在てね、お客樣を見ると其まゝ挨拶なさつた事、それでも何かお愛想を言はうとなさつたらしかつたがお客樣は聞かぬ體で、貴方にお目に懸らうとは思はなかつたがとか捨臺詞を言ひながら出て往かうと被成つたの、旦那樣はそれを引止めて一緒にお書齋へお這入なさつたわ。』『谷さんは氣が狂つたやうにお二人の後姿を睨詰めて旦那樣のお革鞄とお傘とを受取つたまゝしやつきり棒のやうに立つてゐたの、と思ふと突然お部屋から飛んで出たのよ、私は階段の後の壁の蔭に隱れてゐたけれど谷さんは二階から降りさうで慄乎したわ。でも谷さんは一向氣もつかずに其儘飛んで往つて仕舞つたのよ。私ねこりや何でも大變な事があるに相違ないと思つたものだから旦那樣とお客樣がお客間から出て被在るまで待つてゐる計畫にして其儘隱れてゐると、直にお二人は出て被在たがそれが妙なの、あんなに禮儀の正しい旦那樣が先に立つてお客樣の方が背後なのよ。しかし、それより妙なのは旦那樣が急いで階段をお驅上りになると、お客樣は何か心配のあるやうなお顔をして、何とも言へない樣子をしながら背後について被在るの、そしてさう〳〵旦那樣のお居間、お書齋と言つて被在るお部屋へお這入りになつたのよ、私階段から音にならぬのは知れてるが旦那樣なて往つてお部屋の外から立聞してやつたの。』凹栖は聞込み、『それで何だつた』『一寸聞入れたので圖々しく沈着いてお聞きなさいよ、貴方は、ゐるとね、一番初はお客樣が嗚咽うに、あら何時でもお傍に飾つて置いて下さるのね、それぢやあ私正はお口樣が默では被在らないのね、と仰有つたの、勿論私には何の事だか旦那樣がどう被成つたのか分りつこは無かつたのよ、すると旦那樣はお部屋を此方へ向けて進方の窓から歩いて彼往たやうだつたが、お客樣は今度は御機嫌を損じてひどく慍いたやうに何か仰有つたの、すると旦那樣は、いゝえ〳〵、何かお話し被成つて被在たおりお聲が低いので私には何にも分らなかつたの、其內お客樣の方は何か喧嘩をなすつて被在るやうな御樣子なのよ、私は喫驚して逃出しかけた途端お客樣は甲高な聲でもう何も言つて下さいますな自家位氣位の高い家に警察沙汰なんか仕出來す事になると、いや〳〵貴方さうして其樣が出家ましやうつて被仰るのよ』鹿女は與奮して眞赤になりながら『ほんとにお客樣はさう仰有つたのよ、自家位氣位の高い家に警察沙汰なんか仕出來す事になるのを恐ふとだつてさ、そして旦那樣のお名を呼びかけて、さうして貴方そんな事が出來ましやうて仰つたの。』凹栖は鹿女の話が思懸けぬ事になつたので少々驚きながら『さうするとお主人は何と仰有つた』『あら私それまで聞いて居なかつたわ、はもう立聞處ぢや無い、早々お二階へ逃げて仕舞つたの。』『そして其事を誰かに話したかい』『あら誰が話すもんですか、話すのは貴方が最初よ』凹栖はそれで鹿女との會見を切上げた。

■亞米利加板の馬 此の繪は亞米利加の版で元は油繪であるらしい。元來馬の繪は我邦では……又は武者繪の類で……色彩に於ても構圖とか新……の專門的の大家があるが歐米の如く一般の國民に馬の趣味……此の繪の如きも細部に亙つて專門的に批評をなせば……

中學世界 新年號

東京博文館發行 賣捌全國各書店

■二十歳の男子に與ふる書……若宮卯之助
△松は植物界の大王……伊藤理學博士
△辭書に無い語原……大槻文學博士
■東天紅……三宅文學博士
△世界支配の五大民族……大類文學博士
△若き日（和歌十六首）……佐々木信綱
■予の二十歳頃の理想と境遇と記憶（官界、學者、藝術家、實業家、等七十餘名、今日の地位と對照して興味深き……）
■予の中學世界投書家時代（各方面に頭角を現はせる十餘家の告白）
△志望兵を虐めろッ……
△帝大を優等で出た人々……千駄木町人
■受驗欄 各學校生徒募集一覽表 最近の受驗消息と受驗實記
■中學教師の手紙……五郎
△人類學者（科學探偵）……廣田花崖
■小說 歸省せぬ保太郎……生田
本號に限り特別增大 定價三十錢 郵稅二錢

生活

■百廿五歳 論說 百歳會の大隈侯爵
△兒悉く九十歳以上……ハーデー
△十八人 精神の實驗……不讀書樓
△新舊男女俳優給金……雲岳太郎
△四界 珍事畫報……群 青子
■百歳以上 長壽者實驗談
十大學者の十大論文
■海會寺物語（探偵實話）
■初春狂言 騎り初め
本號に限り特別增大 定價三十錢 郵稅二錢五厘

冒險世界

■日出國（小說）……長瀬春風
■これでも人間か……一月大膽
△青年首相ピツトを懷ふ……阪本紅蓮洞
△俺は天下の大馬鹿者だ……頭山滿
■喧嘩は悉く傑出……仲小路農相
△三浦梧樓朝鮮の荒療治……
△五萬圓で內閣乘取……城南浪人
■青年の意氣と血と涙と腕……城生
附錄 古武士の出陣（大判石版）
■平民出身の大臣……對山居士
△青年時代決死の大飛躍……
△海軍の話でもよければ……海軍中將
■青年の飛躍と冒險 思想……島田三郎
△人面猿に弄れた三年間……
△雨七段の柔道遺根試合……
■角力壇の上新進氣銳……竹紫漁郎
■金牌懸賞 當選發表並に新題發出
本號に限り特別增大 定價卅六錢 郵稅二錢五厘

◎イルクーツク市擾亂　邦人二百名の消息不明

チタよりの報に依ればイルクーツク反過激派は過激派に向つて武裝解除を勸告し若し之れが要求を容れざるに於てはアンガラ河の氷上を突破して攻擊す可しと又別報に依ればイルクーツク市民は飢渇に瀕し掠奪凌辱等盛んに行はれ婦人小兒の屍骸累々たり又佛國領事ベルロ氏外外人數名の死傷者あり過激派はクラスノヤルスクより盛んに援兵を輸送しつゝあるが約二百名の邦人の消息は今に不明なりと(哈爾賓電報)

◎海軍委員露都到着

海軍行動中止に關する協議の爲め獨逸海軍委員は海軍の行動中止に關する協議の爲め露都に着したるが一方約四十名より成る獨、墺、土耳古、勃牙利の各委員は商業其他の復活問題に就き協議の爲め來る可し(哈爾賓電報)

◎講和條件と英國

クルップ製砲會社の機關紙は論じて曰く『講和條件として論ぜられつゝある非併合の條件は英國の堪へ得ざる處なる可し何んとなれば此の主義の下に英國は埃及、亞剌比亞、メソポタミヤを撤退せざる可らざればなり(アムステルダム電報)

◎戰爭目的訂正案の否決

佛國代議院は政府信任案を可決したるが之に先ち無併合無賠償を原則とする露國の一般的講和條件に從ひ聯合國の戰爭目的を訂正せんとするロンギユ氏の動議は百三十三對三百七十八の多數にて否決されたり(巴里電報)

◎露貨幣金塊徵發

露國內諸銀行に於ける貨幣準備として又は金塊として發行せる黄金を全部徵發し國庫の正貨準備として保管す可しとの命令發布せられたり尚金庫所有者にして其の引渡を拒む者は全部其金庫を沒收せらるべし(露都電報)

◎佛國商船徵發と召集

佛國代議院は政府に商船全部を徵發し得る權利を附與したり又一千九百十九年度兵召集案は七十三票に對する四百五十二票の多數を以て可決されたり(巴里特電)

◎居中調停と電命

十二月二十九日の閣議にて陸徵祥氏より哈爾賓に於ける露支軍交戰の結果並に今後の處置に就き報告あり其結果政府は直ちに接西南諸省と交渉せず李純氏に居中調停を爲さしむるに決し此の方針にて李氏に對し電報を發する事となせり(北京特電)

◎慰問と謝電

十二月二十八日衆議院が院議を以て出征帝國艦隊に對し慰問決議を爲し同時に右慰問決議文を贈呈せるに對し二十九日午後ホノルヽ發にて森本常磐艦長より又三十日マルタ發にて佐藤司令官より更に同日シンガポール發にて小栗司令官より何れも大岡議長宛にて左の同文電報衆議院に達せり(東京特電)

衆議院の鄭重なる決議に對し艦下一同を代表し深厚なる謝意を表す猶益々奮勵興望に副はん事を期す右然る可く御披露を請ふ

◎神田秘書課長通過

神田秘書課長は二日朝高麗丸にて釜山着午前十時半京城へ向け出發せり(釜山特電)

◎總督新年挨拶　總監軍司令官

長谷川總督、山縣政務總監、松川軍司令官は二日午後二時昌德宮を訪問し仁政殿に於て李王殿下に新年の賀辭を述べて退出したり

◎李王殿下賀詞

李王殿下には一日午後一時三十分御出門德壽宮に赴き李太王殿下に新年の挨拶を申述べたり

◎昌德宮新年宴

李王殿下には七日正午御親戚貴族並に李王職員約百名を內殿に招待し新年宴會を催ふさるゝ由なるが王妃殿下も同日午後三時より前記夫人を招待同樣新年宴を開かるゝ筈

◎英軍敵猛襲擊退

三十日夕刻ヘイグ元帥公報に曰く敵はキャンブレー南方山脈上なるウエルシ支脈二哩の戰線に[illegible]攻擊を試みしが[illegible]擊退されたる[illegible]

員八百名は解雇さる可し(倫敦電報)

◎英國防令新條項

英國國防令の新條項官報に[illegible]

◎米國昨年輸出入

米國政府當局の調査に依れば一千九百十七年度に於ける米國の總出額は六十億弗以上に達し[illegible]

◎領交渉使の急行

[illegible]呉光新氏を攻擊せしめ北京之[illegible]中なり呉光新氏は湖北の王占元氏に應援を乞ひ居れり(北京電)

◎東清値上實施

東清鐵道は一日より貨物及旅客[illegible]

(三等八十一名)

一各地の新年

▲釜山　釜山府廳にては元旦午前十時より御聖影の拜賀式を擧行終つて一般市民の拜賀を許し皇運の隆盛を祈り祝杯を擧げ警察署、憲兵分隊、陸軍運輸支部、郵便局、鮮銀支店、大阪商船其の他銀行會社にては各自集合して祝意を表したり又府廳拜賀式後十一時より公立幼稚園階上に於て官民合同の名刺交換會開かれ和氣藹々の裡に十二時散會せり(釜山)

▲仁川　朝來風なく淡雪續紛として降り元旦流石に靜かなり市中各戸の軒に飾られたる注連繩や瑞色却て豐かなり廻禮の人々微醺を帶びて市中を往來し新春の色に春光の影はなくとも淡雪過ぎ▲名刺交換會は午前十一時より仁川俱樂部に於て開催最初楠野府尹の發聲にて兩陛下の萬歲を三唱し正午散會此の日參會する者無慮三百近く盛なる光景を見たり▲仁川神社にては午前十一時より元旦祭執行上原神官の祝詞獻饌あり正午閉式せり▲仁川府廳にては午前九時廳員一同樓上に參集拜賀の式を擧げ終つて九時三十分より十時半迄一般市民の拜賀を許せり▲仁川稅關にては午前九時三十分稅關階上に於て拜賀式擧行式後職員の祝賀會を催ふせり▲仁川警察署にては午前九時三十分署樓上に署員一同參集新年の賀の挨拶を述べ午前十時三十分終了せり▲仁川小學校及び高等女學校にては何れも午前十時より各校講堂に於て拜賀式擧行君が代の唱歌校長の訓話等型の如く同十一時終了其他學修學校商業學校及び普通學校等同時刻に於て各派拜式を行ひ何れも午前十一時三十分終了せり(仁川)

宇佐美內務部長官試筆

▲元山　朝來曇天十一時頃より小雪降り豐年の瑞兆を表はる一般の拜賀は府廳に於て午前九時より十時迄行はれ十二時より會議所にて名刺交換會を催し盛會なりき(元山特電)

▲木浦　一日は例に依り午前九時より十時迄府廳にて一般官民の拜賀を許し十時より十一時迄公立小學校に於て拜賀式擧行十一時より松島大神宮に於て遙拜式を行ひ正午は官民合同の名刺交換會を公會堂にて開催又在鄕軍人會は午前九時三十分府廳にて拜賀をなし直に事務所にて祝宴を張りたり(木浦)

▲群山　朝來曇天午前九時頃より降雪續紛として到り滿街白皚々寒氣酷烈なり群山府廳樓上に於て午前十時から諸官廳吏員一般民の拜賀式を擧行又群山公立小學校に於ては同校職員生徒及群山公立普通學校公立農業學校公立水產學校職員生徒の拜賀式を擧行したり▲名刺交換會は群山公立商業學校大講堂に於て正午より開催參會者三百餘名に達し天野府尹の開會の辭ありて祝宴に移り宴酣なる頃府尹の發聲にて兩陛下の萬歲を三唱し午後一時散したり▲降雪續紛天候不良なるに拘らず全市街は交禮者續々たる如く盛況を極めたり(群山)

▲馬山　朝來曇りたれど晝頃より晴れたり、府廳にて官民の拜賀式及び名刺交換會を開催されたり(馬山特電)

▲全州　朝來風なく瑞氣街に充ち各戸新年の裝を凝せり各官衙諸學校にては夫々奉賀式あり午前十一時公會堂に於て官民合同の名刺交換會開催會するもの約百餘名主催者面長朴卜鉉克氏の新年の挨拶並に祝詞朗讀あり直ちに酒を汲み各自新年を交換すやがて橋本檢事起つて兩陛下の萬歲を三唱一同唱和し隨時散會せり(全州)

▲大田　曇天にて氣溫降る各學校にて拜賀式擧行され午前十一時半より公立小學校にて名刺交換會を行ふ參加者三百餘名盛會なりき(大田特電)

▲晉州　天氣晴朗にて午前九時より遙拜式擧行同十一時名刺交換會を催ほし佐々木道長官の發聲にて萬歲を三唱散會せり(晉州特電)

▲清津　元旦は朝來靜穩なり小春日和の如く溫かく小學校にて官民祝賀會を催ふせり(清津特電)

▲裡里　益山郡廳裡里出張所、憲兵分隊等に於て夫々拜賀の式を擧行し各學校にては午後一時より其々祝賀式を擧行す▲官民有志は一堂に會して名刺交換會を開き互に交驩をなし新年の第一日を愉快に過せり(裡里)

▲開城　前夜來雪降り寒さ嚴しかりしが開城神社には午前二時頃より參拜者あり▲小學校にては午前八時職員生徒を引率して開城神社に參拜し午前十時より校內に於て拜賀式を擧行井上校長の訓話あり官民多數の參列あり▲新年祝賀名刺交換會は午前十一時より小學校內に於て開會出席者三百名久保田面長の發聲にて兩陛下の萬歲を三唱して散會せり▲在鄕軍人會にては午前十時より憲兵隊構內にて祝賀會を催したるが出席者四十餘名宮崎會長萩原分會長、永田憲兵分隊長の訓示あり嚴肅の裡に閉式せり(開城)

▲安東　朝來曇天氣溫午前氷點下十七度を示せり祝賀式は午前九時半より領事館に於て行はれ▲小學校にては午前十時より式を擧げたり▲午前十一時公會堂に於て名刺交換會開催出席者三百餘名領事の發聲にて兩陛下の萬歲を三唱して散會す▲支那道尹、知事、警務長等領事を訪問して賀詞を述べたり

▲大連　天氣極めて晴朗微風あり氣溫氷點下十度寒氣激しかりしも市中は總て賑やかなりき▲午前十一時より實業俱樂部に於て名刺交換會を開き祝杯を擧げ萬歲を三唱散會せり(大連特電)

古海警務總長試筆

▲奉天　一天清澄實に近年に無き好天氣なり、朝來北の風ありたるも氣溫は低く氷點下二十一度三分之を昨年の元旦氷點下二十七度五分に比すれば本年は六度二分の高溫なり▲居留民の御眞影拜賀式は午前十時より奉天總領事館にて行なはれ▲名刺交換會は同十一時より新市街覇生座にて開催されたり▲軍隊、警務署、郵便局、南滿醫學堂、中學堂、小學校等にても夫々拜賀式を擧げたり(奉天特電)

▲營口　天候快晴、氣溫戶外にて氷點下十三度三分を示す▲午前十一時領事館に於て拜賀式を行ひ參列者二百餘名に及ぶ、午後一時より公會堂にて互禮會を催ほし日支人二百餘名の出席者あり盛會なりき(營口特電)

▲旅順　元旦午前八時の氣溫氷點下十五度天氣快晴午前十一時より公會堂にて遙拜式を行へり(旅順特電)

◎重役會議　久保滿鐵理事談

大連に於ける滿鐵重役會議に列し名古屋に歸任せし久保滿鐵理事は局長の談に曰く

▲滿鐵重役會議　滿鐵の役全部揃つて會議をした事は滿鐵設立以來二度目であると思ふ、いつの會議にも事故や旅行で缺席があつた、今回の會議の內容は制度の改正や朝鮮線經營に對する色々の事其他各種の懸案を審議決定したのであるが、未だ語る譯には行かない、其內事實に現はれて來るであらう

▲滿洲線好成績　滿洲線の昨今は豆の出廻りで非常の繁忙を呈してゐる、今年は一體に滿洲線の營業成績は頗るよく昨年の同期に比すると既に約四百萬圓以上の收入增を見てゐる、尙ほ撫順炭の採掘は甚だ好く前年より稍減じたけれど契約炭以外は相當の引上をやつたから其の收入も結局可なり增加したであらう

▲鐵道新事業　朝鮮の鐵道局には鐵道新事業費の計上を多く見るが未だ議會の協贊を得ぬ事だから、從つて何等公式の通知は受けない、又滿鐵としては實際上其の準備にもかゝり得ぬ譯だ、要するに於て鮮滿の如き寒冷な地方は著しい不利がある、年度後りの四月に入つて新事業の計畫準備を初めると、すぐに仕事の仕好い時期を經過すると云ふ事になるとなれば素より全力を盡して事を進めるのは勿論である

▲鮮滿統一　予の如き大連に旅行すれば常に滿洲人士に鮮滿と云ふやうな區別をせず、國利國益を主眼として總ての事をやつて行くやうにと云ふ事を折りに觸れ勸誘してゐるが、朝鮮銀行東拓の滿洲進出並に鮮滿鐵道統一等の施設が實現した今日對立的に鮮滿と云ふ區分を附するのはいけない、何事も大局上の利害より打算し區々たる考へは排しなくてはならぬと云ふ、時勢はそれを要求し、事實其の障壁を撤しつゝあるが尙ほ若干朝鮮滿洲と云ふ分ちをする傾向のあるのは甚だ遺憾である。

恭賦海邊松　東嶺　持地六三郎

卓立神州瀛海東　老松蒼翠更雄雄
盤根碎浪穿岩石　勁節凌霜指碧空
振[illegible]偉[illegible]持大尾　[illegible]
千年不改蒼々色　[illegible]

戊午元旦
元旦[illegible]　乾坤[illegible]
[illegible]　大正天皇戊午年

新春口占　天彭　今關壽麿
今日新正舊諾天　家々松竹自使妍
[illegible]老親壽　兒在韓京已一年

除夜有感　無佛　陳人
[illegible]

[illegible]

◎鮮銀滿洲新店長

鮮銀にては一月一日附奉天鐵嶺旅順遼陽鐵嶺三店長引續ぎたる旅順遼陽鐵嶺三店長を左の如く任命せり

鐵嶺出張所長(兼)　小西春雄
旅順同　今井八十次
遼陽同　藤岡磯太郎

◎難波英夫氏東上　雜誌朝鮮及滿洲社編輯長難波英夫氏は今回東京の某所に榮轉すべく同社を辭し來る五六日頃退京東上すべしと

□重要電報　欄外にあり

□定例休刊　四日は定例休刊す

始祭の翌日に付定例休刊す

人事消息

▲三宅警務部長　一日京城より[illegible]
▲小山田憲兵隊長(兵隊司令部副官)　二日[illegible]地より歸任

國語早覺[illegible]

[illegible]

謹賀新年

大田金融組合 理事 佐藤作造
大田春日町 金生紹介所
大田本町 履物商 築出商店
鳥致院 橋本寬二
鳥致院 吉川直藏
鳥致院 岡清太郎
鳥致院公立尋常小學校長 前川利器藏
京釜線全義驛 菊池平三郎
京釜線[illegible]驛 原醫院
京釜線[illegible]驛 山田商店
京釜線甑坪驛 倉本莊商店
京釜線永同 穀物商 岡村新市
芙江公立普通學校長 嚴部富枝
京釜線芙江 尾崎商店
芙江地方金融組合理事 原田龍起池
鳥致院 諏訪崎商店
鳥致院 白井雜貨店
鳥致院 米穀商 阿部商店
鳥致院 米穀商 中井又吉
鳥致院 朝鮮興農園
全北黃登 龜田源太郎
全北咸悅 柄屋濟
群山全州道 田中陶器店
晉州金融組合 理事 河村利舍
光州農工銀行 支店長 山崎陳平
全南寶城郡守 金東祐
全南寶城郡書記 廣瀨直三
全羅南道咸平郡守 蔡洙康
群山地方金融組合 藤崎丈松
全南麗水 茶代廢止 麗水旅館
群山 岡田酒店

賀正 大田[illegible] 小野[illegible]
賀正 [illegible] 植地喜三郎
賀正 大田[illegible] 朝日商會
謹賀新年 大田本町二丁目 矢切賴治
賀正 [illegible] 中尾[illegible]
謹賀新年 [illegible]株式會社
謹賀新年 大田春日町 荒川樓 電話一〇三番
謹賀新年 西洋御料理 別府溫泉 大田本町一丁目 電話二四番
謹賀新年 會席御料理 大和川 大田柳町 電話二七番
謹賀新年 大田春日町 土永吳服店 振替京城一一九六番 長電一六番
謹賀新年 御料理 京家 大田柳町 電話六四番
謹賀新年 大田本町二丁目 土井濃商店 電話長六五番
謹賀新年 會席御料理 大田[illegible]町 築紫樓 電話一〇四番
謹賀新年 會席御料理 大田川端町 旭亭 電話一六五番
謹賀新年 輕便御料理 まん月 大田春日町 電話三五番

◎米鐵道合同確定

米國政府管理の下に於ける

鐵道合同は確定したりウオルカノハインズ氏は大藏卿マツカーズ氏の下に就任して鐵道事業に携はる可く鐵道財政整理の結果有物勤務せられるものなり（倫敦電報）

海外送金を取締

外國株券買入に際し英國本國外へ送金する場合大藏省の許可證を有せざれば禁せらるゝ事を規定せるものにて出超過三千一億五千萬弗に達せり（華盛頓電報）

◎南北兩軍の激戰

石星川氏より王總理の停戰命令に拘はらず遂に宜昌を包圍し呉…分に對し平和解決を希望すと述べたるに拘はらず

岳州に向ひたる顏世清交渉使は重大なる要務を帶び一日北京に急行せり之れ一時東游管理權を委任せらるゝに非ざるかと推せらる（長春特電）

◎連絡船上陸客

三十一日朝入港高麗丸一二等上陸客（一等廿八、二等七十…）

本日附録と八頁

◆元旦參賀の總督官邸

◎雪の新年を迎へて

總督官邸その他元旦賀客の印象

▽賀客歡語豐かに
【長谷川總督官邸】

駒來の六花繽紛と飛ぶ戊午元旦を迎へたる倭城臺總督官邸には早くも午前十時絡繹として參り到る參賀の客の車馬をその門前に連ね〇十時半李堈公殿下の李太王殿下御名代として參賀せられたるを初め、松川軍司令官の參賀あり、次いで李王殿下の賀詞奉呈執奏方に見えた依頼のための參入あり、漸く朝鮮貴族、在留外交團の參集あり、到本府並に所屬官署各部長官、勅任官、李王職々員、中樞院、府官、各部總代、民間一般參賀者の頭かにて賀詞を述べ、簡酌の宴は大廣堂に開かれて喜びの食卓を圍んで賀客の歡語は愈々高く、かくて十二時全く接見を了りたり

▽食堂に雅客聚りて
【倭城臺の交換】

今年總督官邸に於ける祝賀式に參列して留守の總監邸には朝來、雪を踏んで總督邸の歸路を集り來る參賀者のために總監の不在を守るかの賀客がその食堂に多かつた、宇佐美松永持地各長官森安博士をはじめ兩社側には原田郵船、久保滿鐵の人々で盛んにシャンパンを扱いての歡語が遂に崖城森安博士の元旦や煩惱の出るひまもなくの一句が話題となりこれに宇佐美長官の『一年中煩惱』の迷語があり、これに應じて『シャンパンを酌む良に』でつまつて仕舞ひ男振を下げた松永長官、雪辱の爲めの好敵都座んなれと應酬したのが『元日や煩惱の犬出て困る』で玄人の崖城を壓す數等の傑作といふので喝采を勝ち得『波たゝぬ御代を壽く海士が家の門邊に高し磯の松』『崖城』『長閑なる海面に鶴の影見えて御代を壽ぐ高麗の松原』宇佐美醉象長官等があつてさんざめき雪つもり鶴の子も狂ふ初日出の盛宴は長く續いてゐた傍席上記者しらずの次の歌が某大官のものとして紹介されてゐた。今日がこそまらぬ月日はまゝよ、として醉ひはじめ

▽盛裝の軍人が續く
【松川軍司令官邸】

元日の午前十一時頃司令官々邸に祝辭を述べに行く盛裝の軍人がゾロ〳〵正門を入つてゐた、恰も司令官は總督官邸參賀の留守中で大食堂には參謀副官等と副官を始めとして飾つた山本高級參謀や千輪古城兩副官が切りに參賀の客を接待してゐた、食堂の中には四十人許りの鮮騎將校が綺羅びやかな大禮服で集まつて盛んに祝盃を擧げ佳肴に箸をつけ火暖爐の前で氣焔を擧げてゐた賑やかな事夥しい、將校は正午頃歸るだらうとの事だつたが始らく武官連と話してお暇する外は不相變雪が盛んに降つてゐた

▽御主人は留守中
【立花憲兵司令官邸】

司令官官邸から立花師團長の所へ…け立つて松永長官、

名刺受けには山のやうに名札がたまつてゐた

大和町の官邸には、雪が降る、頻りに雪が降る、御主人は總督府の本館の各長官の集まつた總督官邸のお客ぶりで留守、雪に嘯へ張り巾を著て詰めかけて行く參賀の客も玄關先できぬけて行く人は少ないらしい、

▽ニコ〳〵の白頭總裁
【美濃部鮮銀總裁邸】

午後三時美濃部鮮銀總裁邸に參賀に行く、玄關を入ると食堂の方から元氣の好い聲が洩れる、入つて行くと御主人の白頭總裁、例の如くニコ〳〵して盃を擧げ自慢の秘藏のたらしく精力主義の面を一層精力主義に見せ四方八方に論鋒を向けてゐる、記者の如き大分其口調を浴びた、夫人が時々姿を見せらる、お料理が出る玄關の方には參賀の客が引切りなしに見れる、その雪が邸内の庭を美化し、又近く整れた南山をボーッと曇らして見せる、△△君…と總裁は記者の名を呼で『今も中村君と話してゐるんだ朝鮮銀行今後の計畫其を小ティにきめ置ゐた所で時勢は常に豫算の豫期以上に進む、須らく大方針だけを定めて置けば自餘の行務は臨機應變に處理して行つて誤りからうぢやないか』然るべくお答へして辭去した

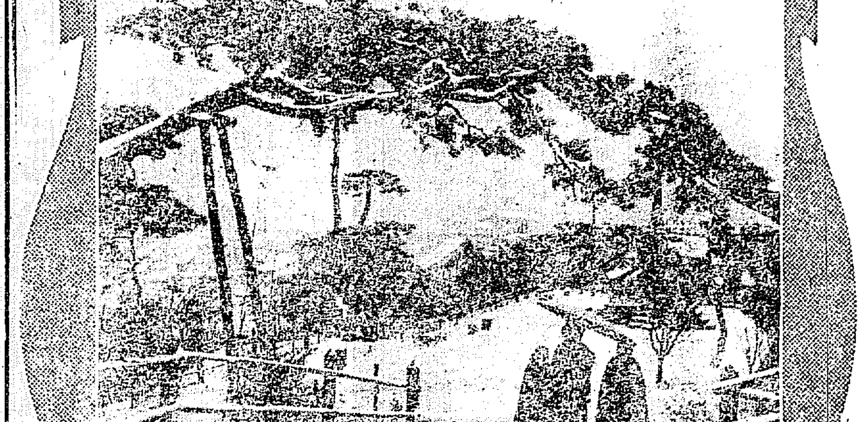
▽歡聲が絶えない
【古海警務總長官邸】

古海警務總長官邸にては恒例により朝來降りしきる雪を冒して年始客續々と來る主人將軍を始め太田

▽春の樣な大食堂
【久保滿鐵京管局長】

午前十一時半久保滿鐵京管局長社宅に歡訪する、御主人は御廻禮中、もうすぐお歸りだらうとの事だつたが記者と相前後して安藤川江黑澤各課長大内豬原一ノ瀬の諸氏を初め十名餘の高級社員が其の大食堂に集まつた朝鮮ホテルの料理で御家庭のお料理が次ぎから次ぎに出る、淑とやかな夫人が御主人に代り酒を勸められ又客の間ひに應じ大連の正月の話しなどをされる、暖爐は暖たゝかに燃ゑ、春のやうな暖氣が室内に充ちてゐる、外には雪が音もなく降る、頭の格好と禿げた具合が寺内首相の稱ある河合君、西大門で元旦匆々屁餅をついたと高聲に繰返す、屁餅でよかつたに頭を打つたら凹んだらう、イヤすべつて結局屁餅より無事だつたらうなぞ、戯談を云ふ惡日屋もあり仲々賑やかだつた。

高級副官、赤澤副官、警務監部員等來客の接待に忙殺され客間は例年の如く應接室全部を開放してあつた來客の主なるものは朝鮮貴族を始め軍人多く夕方迄歡聲絶えなかつた



◆元旦南山公園の雪

◎歳旦祭

京城神社に於ては一日午前九時より歳旦祭を執行したるが定刻に至るや拜殿前の設所に於て修祓の上齋主、齋員、伶人、氏子總代参列員等定めの席に著けば嚴嚴なる奏樂起り夫れより谷村齋主昇殿御扉を開き奉り齋員神饌十臺を傳供し齋主は歳旦祭の祝詞を奏し玉串を奉奠し參列員も順次玉串を奉奠して式を終りたり

◎李王家の新年
父王殿下と御對顏

昌徳宮の新年祝賀は本春より總て陽暦で執行はれ殊に王殿下は昨年島峰博士の口腔診療で義歯が自由自在に使はれるため此の元旦のみは二十年振りで初めてフントク（白餅）と云ふ御雜煮を妃殿下と共に召上つたさうである斯る裡にも殿下は御寢めを缺かされず定刻には金色燦爛たる陸軍大將の御正裝に御改服あり李王職長官次官以下の祝賀を受けられた夫れが終ると午前十時五十分御出門で陸軍將校官邸へ赴かれた、同官邸では例年の如く依頼あり一旦御歸宮の上午後一時三十分再び御出門妃殿下と御同列で近侍の文武官を隨へられ祈禱の大將を爲して德壽宮に赴かれ德弘殿に於て父王殿下と御對顏あらせられた。此の時の御對顏に付例年の如く先づ李王より『過歳を安寧にせられ給へるや』と申され李太王は之に對へて…

◆元旦雪の街（鮮銀前）と名刺交換會

へて『誠に同慶なり』と仰せらる夫より御食事を共にされて午後三時御退出あり再び大雪の最中に昌徳宮へ歸還相成りたるは同卅分なる

◎雪の元日
賑ふた市中

雪は豐年の兆といふ、その目出度い雪が元日の朝から然かも近年に稀らしく盛んに降り積んで、預ての維新、改居の歡びに新装を凝らした、滿市を更に美化せしめて淸淨なる

民間有志の人々が受附によつて名簿を手にし、諸々天幕張りの中に集まる、午前十一時爆竹を合圖に金谷府尹が壇上に起ち開會の辭を讀み泰平の御代を壽ぎ國運の隆昌を祝した、終つて松永道長官の發聲により會衆一同 天皇陛下皇后陛下の萬歳を三唱し各自盃を擧て漸次散會したが降雪頻りなるに拘はらず國分松永兩長官渡邊高等法院長美濃部鮮銀總裁川上東拓理事原田會頭外數百名の參會者があつた

▦白銀の世界
を現出した元日の然かも各官公署の新年祝賀式の終みし頃から續々として降り出したこ此して燦然たる位階服や正服や禮裝を輝かした文武官が車馬を驅つて總督府に參賀するのを初めとし燕尾服、フロツクコート、羽織袴に威儀を正して往來する年賀の

▦廻禮者の群
には喜色溢れて元日らしい氣分が漲つてゐた雪は降り頻つて初日の光りは見られなかつたけれども、四溫日和の風穩かに暖かな元日であつたため午後にけ積雪二寸を越ゑて靴を埋むる程であつたにも拘はらず

▦人出は非常
に多く賑かであつた、更に夜に入つては居留嬢の人々が鐘路本町通りなどを春りに浮かれ廻つてゐたのは氣の好い正月であつた

◎一同祝盃を擧げて解散

賑ふた新年名刺交換會

京城の新年名刺交換會は午前十一時から南大門小學校々庭で行はれた、定刻に先立ち禮裝の文官武官

◎積雪二寸七分
▼稀らしい元日の雪

本年元日は珍らしくも雪が降つた京城は積ること二寸七分、一年約九升の降雪量があつた、降初めたのは夜中の一時半頃からであつたが一時降歇んで午前九時二十三分から又た降初め次第に朝鮮として珍らしい程の大粒の雪となり日つ降續きが永く日本內地の降雪の樣であつた、之は風が無くつて割合に氣候が溫かな爲であつたからである、因みに此の雪は朝鮮中部以西に普く降つたものであつた

◎三府の新年
◆東京

東京の元旦は連日の寒氣頓に去りて暖かく二日朝は小雨さへありて氣溫緩和し成金景氣の松の內とて至る處賑ひ居れり（東京特電）

◆京阪

京阪神の元旦は晴れて稍暖の寒さに似ず割合に暖かにて二日は曇天なれど風無く暖かし市中は賑へど初荷は例年よりも尠し（大阪特電）

◎初荷に「景氣を生み出す木遣歌」

好景氣の裡に明け初めた二日の京城市中は例年通り初荷で賑はつた、各會社商店運送店などでは番頭から丁稚迄揃ひの羽被に赤や黄色の鉢卷き姿勇しく、屋號を染め拔いた旗を押立て牛車馬車荷車などに荷物を山のやうに積んで練り出す目抜きの本町あたりの賑ひは格別だが數多い初荷車は南大門通りから東大門の果まで續いて雪の初東風に居酥の醉を吹かれながら若い衆の勇ましい木遣歌は街から街を賑はせた。

口初荷　森久商店の羽鹿辯寸及び福喜洋行染料（廣告）

◎鮮人側の新年

朝鮮人側の新年は何んな風だらうと思つて先づ永樂町の趙重應子邸に駆付けて見た御主人は御病氣で樂しい元旦も何となく遠慮勝ちで松鶴鏡入りの鉛の風呂敷に載せた名刺受は主人に替つて『御芽出度う』それより直ちに南山町の宋秉畯子を訪ふた。五ツ紋付きの羽織に仙臺平の袴を穿いて出て來た内地人は宋邸の執事か『やー御芽出度う御座います。子爵は先月より釋王寺の別莊に往かれてそこで年を過されました』といふしかしこゝは門前の注連飾り橙海老等內地と少しもなり變りなく矢張り元旦の氣分が溢れる樣な感じがした。今度は齋洞の韓相龍邸に趣いた。門前に雪掃きの老爺『旦那樣は今朝早くから御出ましになりましたが

◎現金一萬五千圓
【保險加入後百八日目に】

本日廣告にある通り馬山南部御蘭鶴次郎氏は横濱生命保險株式會社と二十年滿期養老保險に加入後僅かに百八日目に死亡せしかど會社は迅速に保險金一萬五千圓を送付し來りし由保險金支拂に付き往々にして紛紜を耳にすることある折柄斯る大金而かも早期死亡に對し迅速に支拂ひせし横濱生命こそ保險會社の本分を盡したるものと謂ふべきか

◎番附發表五日

東京大相撲は五日番附を發表し十一日初日と決定せり（東京特電）

◎火山の大噴火

布臘三十日發電に依れば伊太利ヴエスヴイヤス火山は目下大噴火を爲しつゝありと（大阪特電）

◎中米グワテマラ大地震

中米グワテマラの大地震にて全市を破壞し市民飢餓に瀕し死者八千を出せりと傳へらる（大阪特電）

◎釜山の初市

釜山水產會社の初市は入船四百隻水揚一萬圓餘にて初市としては創立以來未曾有の盛況なり（釜山特電）

◎開通未し
◆北陸線

北陸線は一週間に亘り列車不通にて該線開通以來始めての出來事なり排雪作業稍々進捗せるも今猶敦賀福井間開通せず四日頃に至らざれば復舊六ケ敷からん之が爲め物貨は一帶に緊張せり（大阪特電）

◎初火事

一日午後十時二十分頃京城長谷川町八十九番地…王錫田林方より出火木造瓦葺…平家建一棟二戸を全燒して同十時五十分頃鎭火したり…常務所防隊は…の警察…注意に…住々…の損害…の…發火の原因は…遂燒したるもの…間にて…一時は…

何んでも今日は初雪初詣りをなさるさうでつてもう出掛けました』といつて…を…いてゐた。

日　曆（一月）

一日 四方拜 新年宴會
二日 書初め
三日 元始祭 初寅
四日 政事始
五日 新年宴會
六日 出初式
七日 七草
八日 陸軍始
十日 初金比羅
十一日 鏡開き
十二日
十三日

◆日の出入　（日出）（日入）
一日　七時四十六分　五時十五分
十五日　七時四十六分　五時二十七分

櫻御殿

第百十一回 大阪 霞の家主人

編笠浪人(五)

大野修理の勘番部屋へ、十人あまりの壯士が寄り合つて、世間話に興じて居る、中に
『何と聞いたか、近頃堀江邊へ辻斬が出るといふではないか』と一人が云つた
『いかさま、その評判は手前も聞いた。二三日前も堺筋の町人が首を切られて居たといふ事ぢや』
『さう云へば手前も見た。場所は阿彌陀堂の横手――老松が五六本も繁つて居る、あの下で慘らしう袈裟に斬つて捨て、あつた、その斬口が普通の冴わでない、何れかの家中が、新刀試しに遣つたのかと思ふたが、今聞くと爾うでもないらしい、もし懐中物でも狙ふ惡人の所爲ぢやあるまいかの』
『さうかも知れない』
『怪しからん奴ぢや、內府公のお膝下で、內府公の町人を殺害、所持の金子を奪ふ曲者が徘徊するとは、恕し難い奴ぢや、一詮廢せねばなるまい』
『そこに如才があらうか、町奉行衆の手で、それ〳〵手當は致すさうぢやが、一向效能が無いと云ふ。多分天狗の所爲ではあるまいかと申すのぢや』
『はてな』
『天狗であらうと何であらうと、內府公の町人を殺害して、その所持の金子を奪れば怨敵ぢや、町奉行の手に乘られまで、その儘に致し遁かれようか、いつそ我々の手で引捕へて、制敗を致そうではないか』
『それも好からう』
『見やれ、辻斬の噂が高いので、夜になると人手が少い、これでは町家が困るであらうぞ』
『面白い〳〵、恨し、天狗であらうと、魔物であらうと、秀頼公の御膝下に出沒して、罪も報ひもない町人を斬り殺し、所持の金子を奪ふ者が、彼方此方へ出沒致すなど、謂われては、其こそ大阪の名折となろう。何も御奉公、云ひ出したが吉日ぢや、すぐ參らうか』
『こりや脊があつて面白い、さらば一統打ち伴れて、堀江の阿彌陀堂へ忍び參らう』
一座は何れもいきり立つた、氣の速い壯士は云ふ中に寢刃を合す者もある、一刀を引き拔いて、錆の有る無しを檢める者もある
『堀江へ出ると極つて居るかな』
『その邊は確でない。されどまづ其へ參らう、今夜で成らずば明日の夜も、明日の夜も出會はずば明後日の夜、根氣好く參る中には、きつと罪を遂げる時があるであらう、氣長にして災害の根を絕つと致さう』
『相手に氣取られてはならぬ、用心せへ』
十人の壯士は、それ〳〵諜計を牒し合せて、日のちら〳〵暮れる頃から、堀江の阿彌陀堂へ押し出した、堀江は本田善光が阿彌陀如來の像を取り出した霧跡であり、且つ彌陀出現の土地であるので、阿彌陀堂の參詣は引きも切らずにある、それが近頃辻斬の噂が立つてから、夕暮前から人の氣も無く寂寞となつて、燈明の灯のみが點る
『皆が忍べ、手前は町人らしく扮裝うて彼方から這つて參ろ、さうしたら曲者が躍り出るであらう、その機を外さず、三方から押し包んで、有無を云はせず引き縛るのぢや』と中での年長森本藤五郎が云つた
『心得た〳〵』と一同は木陰へ忍ぶ、藤五郎は小戻して、草叢の音しづかに、彼方此方を徘徊する、月は駒山を出離れて、浩蕩堀江川の波を照らす
折柄、北の方面から、步早に來かゝる浪人體の男があつた

新刊紹介

▲經方十二ケ月(一月の卷)(藤田惡之助著) 曰く『我曹は何が爲に生れたるか、我ばれたる我闘文、昇げれたる我が闘文を國民の眞生活に強く結び付けたる直闘文さなさんが爲め』を達したるものなりと(二十錢東京牛込白銀町二〇青華書院)
▲武俠世界(七の一) 痛快なる記事を以て満紙を埋む讀んで心持のよきこと限りなし(二十七錢東京上野櫻木町共社)
▲西洋雜誌(一月號) 口繪七葉、物語五十何れも珍奇なるもの、みにて記事も亦異彩を放てり(二十八錢東京麴町富士見町四の二二共社)
▲兒童『人生大觀號』 育兒教育以外、結婚離婚等に關する有益なる記事を満載す(三十二錢東京目黑權之助坂下兒童教育所)
▲子供之友一日一話(田村直臣著) 二月之卷にして第一日『誕生日』より第二十八日の『サヨナラ』に至る迄子供に解り易き最も面白き教訓話を集めたるもの(四十五錢東京麴町[illegible])

一月三日九星 舊十一月二十日庚戌 [illegible]

[illegible]

一月四日九星 舊十一月廿一日辛亥 本命三碧 東閉大安

[illegible]

演藝案内

壽座 京城壽町 電話五七八番 當る一月元旦の花形之居 [illegible] ▲前狂言蝶千鳥曾我賀記 ▲切狂言つり女所作事

黄金館 電話二三六三七六 天然色活動寫眞 [illegible]

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番 一月元旦より(午後三日間は晝夜二回開演) 中京落語春風亭柳窓大一座 ▲落語(柳六) ▲落語(花… ▲落語 右圓遊 [illegible]

壽館 京城本町 電話一〇五〇番 一月一日より毎日午後四時開演 女流浪界の横綱京山愛子一行 [illegible] ▲已が罪(京山愛光) ▲柳生旅日記(都秋兵衛) ▲元和三勇士(京山愛奴) ▲小栗判官(桃中軒雲廣) ▲左甚五郎(桃中軒雲廣) ▲水戸漫遊記(京山愛昇) ▲赤穗義士銘々傳 ▲昨倉重四郎(愛子)

大正館 櫻井町 電話八七三 [illegible] ○時局大戰劇『國の光』 全七卷 [illegible] ○滑稽活劇『チャプリンと惡友』 ○新劇『鍋島怪猫佐賀三勇士』 [illegible]

稻荷座 本町五丁目 大阪初下り男女合同大一座 [illegible]

有樂館 [illegible] ◎活劇 [illegible] 總會社特作 南洋 [illegible] ◎ [illegible] 川の卷 三十卷完結 [illegible]

謹賀新年
京城旭町一丁目紅葉谷
御料理
松秀庵 白水
電話 一一〇一番 一二三九一番
別邸 電話 三〇〇番

謹賀新年
忠北忠州本町
雜貨商 原口二商店

賀正
忠北忠州本町
上村藥房

賀正
忠北忠州仲町
梅木製麵所

賀正
忠州公立尋常高等小學校
職員一同

謹賀新年
忠州運送倉庫組合

謹賀新年
忠北忠州仲町
東京きそば 藪

謹賀新年
忠州煙草耕作組合
事務所員一同

謹賀新年
忠北忠州
川本時之助

賀正
株式會社湖農工銀行忠州支店
宮園善太郞
吉川諧之助
金 [illegible]
孫 [illegible]

謹賀新年
會席御料理
七福
忠北忠州錦町

賀正
忠州郵便局
酒井文治郞
義田靖吾

旅行中に付年始年末の禮を缺く
京城本町二ノ八七
下村泰造

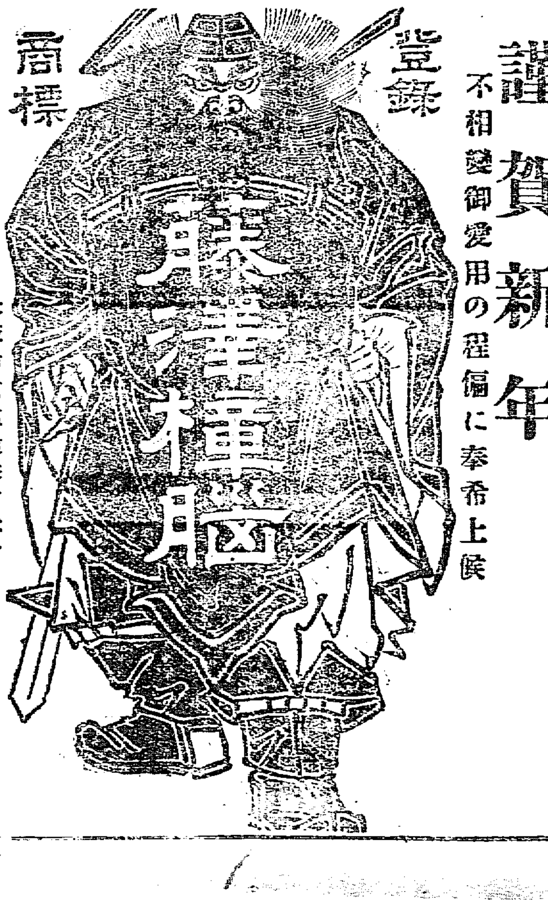
謹賀新年
縮緬綿布商
八木商店
大阪市東區安土町四丁目

新年號(百廿七號)
朝鮮及滿洲
年頭の感……釋尾旭邦
國際分業の破壞と殖民政策……法學博士 田尻
對支世界政策と日支經濟同盟……大石
對支外交と寺內內閣の責任……尾崎行雄
日支合辦滿洲國營鐵道の必要……
朝鮮鐵道……
產地としての朝鮮と滿洲……
北支那及滿洲の石炭と鐵……
北支那より南支那へ……釋尾旭邦
臺灣回顧と滿鮮開拓……
滿洲より朝鮮へ……
朝鮮産業界の趨勢……
朝鮮政變史……
考古學より見た朝鮮……
國境に旅して……
東京の人物の印象と實際……
鳥居龍藏氏を語る……
馬の話……
吾輩と冬……數十名士
麟林と人生……
去年の一月……旭邦生
今年の男と女……
朝鮮の人物……
勅題『海邊松』に就て……
社會百面相……
朝鮮で育つた少年の告白……
▲朝鮮の礦業界 ▲朝鮮の銀行界……▲朝鮮及滿洲 ▲實業家の消息……▲鑛業權者一覽……▲大正六年の出來事……▲漢詩……▲俳句……▲短歌……
定價一部三十錢 京城 朝鮮及滿洲社

謹賀新年
和洋金物直輸入
蓄音器及樂器
京城本町二丁目 釘本藤次郎本店 電話長四五番 二七七四番 振替口座京城二五六番
鎭南浦三和町 釘本藤次郎支店 電話六三番 振替口座京城七六三番
京城本町二丁目 釘本鐵工場
京城本町二丁目 釘本自轉車部
京城本町二丁目 釘本樂器部 電話一一二三八番 振替口座京城六八四番

謹賀新年
不相變御愛用の程偏に奉希上候
登錄商標
發賣元 大阪市東區道修町二丁目 藤澤友吉商店
特約店 京城南大門通三丁目 新井虎太郎藥房

謹賀新年
長生自得千年壽
醸造元 廣島縣西條町 木村靜彦
發賣元 京城府鍾路中央市場 河野又一 電話二二〇八番
發賣元 京城府本町三丁目 河野支店 電話一〇〇七番



新年號 附錄

李堈公殿下試筆

大正六年の回顧(一)

漢城銀行專務取締役 韓相龍

朝鮮半島の經濟は政治、經濟俱に目覺しき發達を示し永久の基礎鞏固に從來益々進運の途程に在るものと謂ふべし吾人は茲に經濟上の見地に於て聊か過去一ケ年間の所見を述べんとす

夫れ財界の基礎は物貨出入關係即ち貿易の旺盛にして且其均衡を得るに在り依之今朝鮮貿易の趨勢に對せば逐年順調なる發展を遂げ近年著しく其程度を增進せるを觀る之れが數字を示むるに客年一月以降十二月十五日迄の輸移出入貿易總額は一億八千四百六十二萬餘圓にして前年同期に比較すれば四千七百十四萬餘圓の增進なり而して輸移出入の均衡は九百十一萬餘圓の輸移入超過なりとす抑も輸移出貿易の增進は半島產業の發達による生產增加と起業界の隆盛等により財界膨脹し頓て物貨出入關係旺盛となり異常の程度に押進したるものなり而して產業界の發達は財界の根柢を鞏固ならしめたるにより貿易の趨勢は將來益々進展し總て均衡を保持すべきは素より疑を容れざる處なり

▲鮮銀の滿洲發展 朝鮮及び滿洲の財界は母國財界の膨脹に呼應して漸次其發展を示しつゝあり此際朝鮮銀行は滿洲及び青島方面へ進出し活動區域擴大となれり於茲南北活動方針により其樞要の地に支店設置を觀たり之れ時勢の要求に副ふたる施設にして所謂鮮滿金融界の一聯を形成したるものなり而して朝鮮銀行券は滿洲に於ても强制通用力を有し從來正金銀行の金券發行權並に國庫事務の讓受せられしを以て恰も朝鮮に於けるが如く彼地の中央銀行たる格に在り今後鮮滿の通商上從めて圓滑となるは云ふを要せず依之双方の利便は甚し尠かるべし

▲鮮銀券膨脹 同銀行券は最近異常の發行額に達したり之れ素より滿洲に於ける正金銀行の金券を鮮銀券を以て代へられしこと並に物價騰貴生產增加に伴ひ貸出金の增進せる原因にて自然銀行券の增發を來せるものなり而して過去の比較に於て大正五年上半期は二千八百萬圓臺より三千百萬圓同下半期は二千九百萬圓臺より四千六百萬圓に伸長せり而して昨六年上半期は三千九百萬圓臺より四千萬圓を往來し下半期に至ては四千二百萬圓臺より一躍六千八百萬圓に躍進し前年に比し二千二百萬圓增加せり就中客年下半期に於ける急激累進の程度著しきを觀る之れ同行の發展及び一般經濟界の進運と共に銀行券の膨脹は素より當然の歸結たるや知るべきなり

▲東拓業務擴張 東洋拓殖會社は客年十月一日本社を東京に移轉し從來の京城本社は京城支店となれり從來同社の事業は主として朝鮮半島の拓殖事業を經營し附業と雖も亦反することと之れなきも時運は東洋の大局に注がれ從つて事業を包括し活動範圍の大擴張を必要とするに到れり而して同社の滿洲進出は鮮銀と相俟て從來偉大なる實績を期待し得らるゝ處なり同社は客年十月新債券千萬圓を發行せられしが其公募成績良好なりし加ふるに附五百萬圓發行あり而して前者は一般財界及び銀行殖銀兩銀行に於て應募又は引受をなし後者は全部大藏省預金部の引受を了せられたるを以て前後併せて一千五百萬圓の事業資金を增加したるものなり

▲朝鮮事業公債 同公債は客年十一月大藏省令を以て四千五百萬圓の發行公布ありたり内三千萬圓は借替に應じ實際市場に影響すべきは一千五百萬圓なりとす該公債發行に關しては際て金融市場の期待する處にして發行に際し資金界に遠に別條なかりし殊に額面金額は二十五圓券の小額券より大は一萬圓迄の七種に分たれたるは大に趣ある所にして時局に伴ふ財政經濟の現狀に於て一般國民の貯蓄獎勵を併せ行はれたるの主旨なりしと云ふ宜也と謂ふべし吾人は取分け本公債に對しては特に鮮居住國民の廣く之れを應募せんことを念とせしたるなり而して其の成績を見るに朝鮮に於て朝鮮銀行を經由して之に應募したる額は二百萬圓に達し其割當額入額は六十五萬圓となれり頗る額に欣ばしき現象と云ふべし

昨年米界

過去四年の回顧

戰後諸物價の暴騰に伴はざりし米價も大正六年に入り形勢大に變じて漸次騰貴を現はし遂に從前の價値を現出するに至りしが顧つて過去四年間の經路を顧みるに

▽大正三年は 米價下落の趨を甚しかりし年にして同年十二月には京城中米にて六圓九十錢といふ最低値に暴落し翌四年春に至りて稍上向を示したりしも五年の下半期迄は八九圓乃至十圓臺を往來せしに止まれり此の間に於て時勢買の要を認め思惑買占等をも試みることは隨々なりしが常に功を奏せずして同下半期は漸く十一二圓に上りて越年し昨年三月迄小高下の裡に推移し來りし處四月に入り地方米況漸く活況を呈せるに至りに人氣大に昂まり次では暴騰をとなりて玆に米價

▽急騰の因を 作り五月末には一躍十八圓近くに吹出し同米株式市場の暴騰、出水被害等の噂材料續出せし外第二回救恤議收をいふ悲觀材料現はれ爆騰期に入るや古米の缺乏と相俟つて相場の步勝を促進し遂に上米二十一圓三四十錢中米二十圓六七十錢といふ最高値を演出せり其後漸落を重ね七未十九圓

▽中米十八圓 位を以て越年したるが前途供給不足の懸念ある折柄多く先高を豫想されつゝあり然れども本年一二月の頃は恰も新米出廻りの時期となるを以て更に一段の安値あるや測り難し兎に角大正七年度の米は需給の關係同時に於ける經濟界の變化等に付ても注視を要すべきを以つて

▽各其目的に 邁進せんとする傾向あり其他關係の成行如何と隨分錯綜せる新規材料の續出もあるべきを以つて需給火的の變化を歩かるべしと推察せらる

謹賀新年
大田電氣株式會社
電話長一四二番

謹賀新年
會席御料理
大田春日町
富士屋
（電話長五七番）
草野富士太郎

謹賀新年
大田材木商組合
富士材木店 大田本町一丁目 電話長六三番
新原材木店 大田本町二丁目 電話長一三一番
滿元出張所 大田春日町一丁目 電話長二〇八番

謹賀新年
會席御料理
花月
大田本町
電話二〇九番

謹賀新年
滿洲特產物商 開原取引所取引人 各建築材料 新聞取次
友信洋行
滿洲開原 電話長三八番

謹賀新年
木材防腐劑クリームヒン 樹木果樹害蟲驅除劑シーエス液 製造販賣
山田禎舖
京城旭町一丁目 電話本局二〇七八番 同龍山四二四番 振替京城三一九六番

謹賀新年
土木建築請負業
上木仁三郎
奉天新市街西一條 電話百五十七番

謹賀新年
紙函製造
鼎商會
京城長谷川町 電話九一八番

謹賀新年
奉天
彌生座
座主 長谷彌十郎
電話九〇番

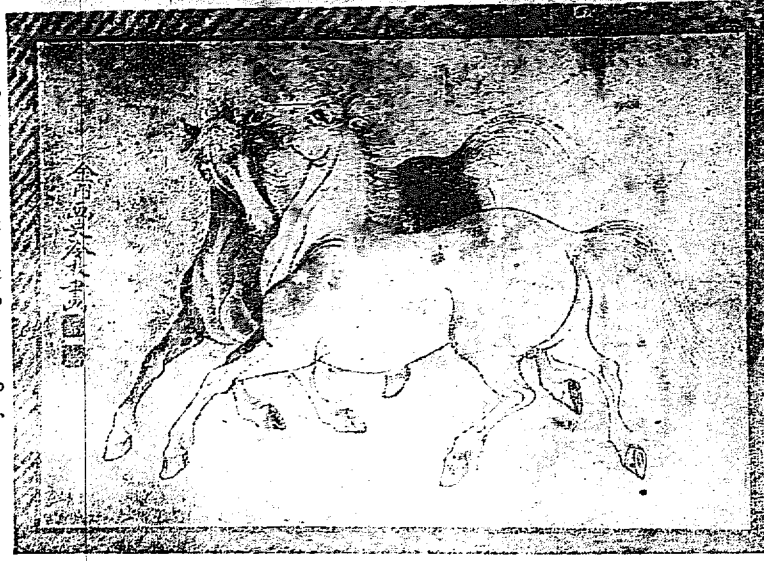
謹賀新年
煉瓦製造販賣 委託品販賣 食料雜貨商
安號
奉天 電話二六九番
旅館部 富屋

謹賀新年
滿洲奉天
御料理
粹山
電話五四〇番

謹賀新年

大正六年十二月十五日より製糖開始
滿洲奉天
南滿洲製糖株式會社
電略マト
製品
雪◎白（太白）
月◎白（上白）
華○白（中白）
特約販賣
安部幸兵衛
三井物產株式會社
合名會社鈴木商店

創立 明治十四年五月
支店開設 明治四十二年
資本金 壹百八拾萬圓
年產額 八拾萬樽
製品 ポーランドセメント セメント製品
小野田セメント製造株式會社
本社 山口縣厚狹郡小野田 電話長一八五番
支社 大連區臭水屯泡子崖
內外一手販賣元 三井物產株式會社



◎金門筆の馬 金枚は支那康熙時代の宮中に仕へし畫家の門より出て師の宋元諸家の畫法と筆意を折衷したる筆を巧みにしたる人なり

清朝の小説に就て(一)

今關天彭

支那に於ては漢の武帝の時に、董仲舒の策論を用ひて、所謂る儒之道を以て官吏を採用するやうにしてから後、歴代の讀書生は痛く小説類を卑しめて、まるで齒牙にも掛けぬ有樣となつたが、しかしその實際は頗る流行して居たのであつて、漢書(書名)の藝文志に、小説家十五家、その數一千三百八十篇と見ゐるのも、その一例に擧げて宜しい。六朝から唐代に及びては、益々發達の運となり、筆をこれに染る人が紛然として蹶り起つた。されば故森槐南博士は、唐以來の小説を(一)別傳(二)異聞瑣語(三)雜事の三種に區別して説明した事がある。別傳とは五朝小説中の隋河記や迷樓記や、太眞外傳とか、霍小玉傳とか云ふものを指し、異聞瑣語とは、酉陽雜俎や、夢遊録などの類を指し、雜事とは朝野僉載や、明皇雜録などを指したのである。雜説流行の元代を經て傳奇流行の明代となり、而して滿漢に入つてからは、蒲留仙の聊齋志異、鈕玉樵の觚賸、余澹心の板橋雜記、張山來の虞初新誌の類が盛んに世間に行はれた。

こゝに一つの註脚を施すべき事がある。以上列記した小説類は、文章も古文であるし、記した事柄も比較的簡單であるし、方今謂ふところの小説とは大にその趣を異にして居る事である。然らば支那には方今謂ふところの小説がないのかと云へば、イナ〳〵大いに有るのである。譚詞小説と稱するのが即ちそれだ。かの名高い水滸傳、西遊記、三國誌、金瓶梅等の類が此譚詞小説に屬するものである。清朝では紅樓夢とか、品花寶鑑とか、儒林外史とか、兒女英雄傳とか、この種に屬する大作が最も多い。これより些しく清朝小説の内容を記して見る。

一、聊齋志異

この書は康熙十八年に一代の才子蒲留仙が著述したもので、狐と幽靈と人との事を記すもの凡そ四百餘條、文章は四六文の妙を極めて艶に、また艶に、讀者をして全卷を讀み盡さずんば手を釋くに忍びざらしむる趣がある。

或る婦人が夜々夢に人と交るが、その人がどうも普通の人でない。これは狐であるまいかと考へて、十歳になる我が兒と老婢とを寢室へ呼んで寢させる事として見たが、夜が更けてこの二人が眠つて仕舞ふと、狐がきつと忍んで來た、そこで婦人は氣が狂ひ、或は泣いたり歌つたりして樣々の狂態を演じながら、夜は自分一人で寢るのであつた。子供は何と感じたか、瓦や石を窓へ積上げ、又泥で壁の穴を塞ぎ、さて菜切庖丁を念入りに磨いて居たが、ある夜、母の囈語するのを聞きつけるや、俄に戸を閉めて大聲を揚げたが、何の異狀もない。そこで小用を足す風をして戸口から離るゝ刹那、小さな貍のやうなものが戸口の隙から逃げやうとするのを見たので、懷中へ忍ばせた菜切庖丁を振上げて、たゞ一擊と斬りつけたが、遺憾……僅かにその尻尾を二寸程斬り落したのみであつた。明くる朝、血の跡を慕うてとある大家の奥庭に入込み、生ひしげる草村に身を隠し、狐の在所を突留めやうと待ち構へた。……かすかに人の聲がする。樹叢の間からすかして見ると、二人の人がお酒を飲んで居て、風向の具合で明日、一壺の白酒を持つて來るとの一語が聞き取れた。やがて二人の人は去つたが、一人の老僕が石の上に眠つて居る。その身體は人間であるが、尻から長い尾が見える。子供は明くる日、町の帽子店から狐の尻尾を買ひ、また親戚に當たる獵師の家から獵に用ひる爆裂藥を盗み出し、さて一壺の白酒を買ひ整つた折しも、昨日見た狐の老僕に出遇つたので、調子好く話しかけ、買ひ取つた狐の尻尾を衣服の間からちら〳〵出して見せた。狐の老僕はこの子供を狐の子と思ひ違へ、自分の仕へる主人は兄弟の狐で、兄弟それ〳〵人の妻と交つて居る事を語つた。小供は老僕の用事は酒を買ふためだらうと、自分の買つた白酒を言葉巧に與れてやる。さてその明くる日例の奥庭へ行つて見ると、大きな二匹の狐が黒血を吐いて死んで居り、中の一匹は尻尾が二寸程斬られてあつた。これで小供は恰悧にも計略を以て母へ纏ひつく惡い狐を討ち取つたのである。

聊齋志異の話は大抵これに類したものである。支那人は主つて奇怪の事が好きで、この書の流行は今尚甚だしい。乾隆年間の碩學紀昀は、四庫全書提要の大著述をした人であるが、この人の著はした閱微草堂筆記二十四卷は、盡く幽靈と狐とに關係した事柄を書いてある。これも聊齋志異の影響を受けたのである。尚聊齋志異の影響は我國にまで推し及ぼして、幕末からかけて明治十四五年頃までの漢文家は、これに類似した事柄を好んで書いたものであつた。又近頃隨筆體の文章に一機軸を出した横川德堂君は、本書から得た所が多いとの評判である。而して板橋雜記や虞初新誌なども盛んに我國に行はれたので、一時服部撫松等の模倣文が多かつた。その中菊池三溪の本朝虞初新誌は特に名高いものである。

◎午年生れの貴婦人 (上段右より) ◎尾崎行雄氏夫人英子(四九) ◎子爵竹屋春光氏夫人壽美子(三五) ◎公爵島津忠重氏夫人田鶴子(四九) (中段) ◎江木翼氏夫人ヒデ子(三七) ◎侯爵前田利爲氏母堂朗子(四九) ◎男爵石井忠恵氏夫人クガ子(七三) (下段) ◎伯爵林董氏未亡人 ◎侯爵中山孝麿氏夫人三千代子(四九) ◎子爵宮内大臣波多野敬直氏夫人ため子(四九) ◎男爵海軍大將伊集院五郎氏夫人繁子(四九)

新年文藝

謎

課題『門松とかけて』

一等 元山 内山湛思
『富士山』と解く
心は『二本竹(日本一)』

二等 京城 木村碧亭
『泥濘の急足』と解く
心は『はねがかゝる』 京城 與田

三等 京城 山中淡史
『結婚式の誓文』と解く
心は『色を違へないしるし』

『貞女』と解く
心は『操をたてる』 龍山 □本小草子

『動物園の猛獸』と解く
心は『圍(檻)をたのはない』 大邱局東拓用度所内販部頭太郎

『正直者の喧嘩』と解く
心は『根がない』

△歳菜心の高い女と解く心は歳を飾る 京城利用福倒 細井こう
△正月の餅と解く心は大きいのもあれば小さいのもある 京城 松野竹陽
△鳥羽・解く心は松竹梅を飾る 仁川 稲田碧天
△搦揚の土俵入と解く心は七五三(紀)を張る 京城 川合朴堂
△上手の弓術と解く心は矢先(笑)が立つる 京城 木庭生
△鏡の説明と解く心は門に立つ 京城 海雲いつ子
△上手な兵式體操と解く心は左右からよく揃ふ 平壤西坊 矢野牧子

和洋船具建築金物 鎮南浦 田邊商店

鎮南浦郵便局 成田勝虎

鎮南浦 原田中二郎

鎮南浦 岩本直太郎

鎮南浦 大和組運送店

京義線宜川 伊藤豊

平壤南門町 脇坂文鮮堂 電話二四番八二六番

平壤 中田鐵工所 所主 中田友治 平壤電話八一七番

平壤大和町 平壤藥品販賣所 長電話六一番 振替京城三四〇八番

果實商物問屋 杉山商店 平壤大和町

土木建築請負製粉業 山田八太郎 平壤電話七三九番

日用雜貨 紀州屋商店 平壤大和町 電話四一四番

平壤府 片倉組支店

高瀬合名會社支店 平壤館後里

平壤府南門町 池自轉車商會 電話七五七番

陶器雜貨商 大原商店 平壤西門通

貿易商 鬼頭支店 平壤大同門通

平壤南門町 陶器金物漆器荒物 秋鹿商店 電話一二二番

貿易商 伊藤商店 平壤大同門通

平壤勞働組合 金丸運送部 組合長 金性洙 理事長 内藤兼之助

書籍文房具古本賣買 中村書籍店 平壤大和町

藥品問屋 森田藥店 平壤大和町

市野萬五郎 平壤黄金町

薪炭商 黒川廣助 平壤黄金町

謹賀新年
东亞煙草株式會社特約店 スタンダード石油會社特約店 ライオン齒磨朝鮮一手代理店 三菱製紙京城一手販賣所 林染料京城一手販賣所 武田賣藥京城一手販賣所 印刷のみ・と新版取次特約店 朝鮮製絲株式會社特約店
务 森久商店
京城本町二丁目 電話長三五〇番 (振替京城二一番)
支店所在地 平壤、新義、安州

謹賀新年
京城消防組
組頭 伊藤友松
小頭 安達久次郎
小頭 中島儀三郎

謹賀新年
黄燐々寸、安全燐寸 軸木製造販賣
日清燐寸株式會社
滿洲長春城内 電話六六番

謹賀新年
會席御料理
松翠樓
京城壽町 長電話五七七番

謹賀新年
中柴商店 本町通電話二四番
横山商店 全州通電話一〇二番
高瀬支店 全州通電話一四番
福田又支店 全州通電話三番
不二株式會社 本町通電話四七番二番
檜垣商店 全州通電話一〇五番
弘津商店 全州通電話二一八番

謹賀新年 群山明治町 楠田義達 (電話三二番)

謹賀新年 晋州城外 松浦時計店

謹賀新年 日本齒科醫學士 群山大和町 野中松太郎

謹賀新年 晋州旭町 山川商店

謹賀新年 群山本町 萬石支店 電話三五二番

賀正 慶南昌原郡進永 村井農場 水野清

賀正 群山明治町 全忠病院 電話長四〇番

賀正 龍山元町二丁目 植西呉服店 電話長四二八番

謹賀新年 銘酒浮之鶴全南一手特約 岡村酒店 木浦電話一六四番

謹賀新年 米穀商 群山明治町 澤田傳松 (電話一五三番)

謹賀新年 醫療器械諸藥種商 菅辨助商店 木浦電話二二番

會席御料理 奉天鐵道附屬地 いろは館 電話二五六番

謹賀新年 各官衙御指定 全羅南道麗光 徳永旅館

賀正 食道樂 巴 滿洲奉天附屬地

謹賀新年 全羅南道筏橋浦 高橋旅館

賀正 會席御料理 奉天鐵道附屬地 旭樓 電話五二〇番

謹賀新年 晋州旭町 杵島屋洋服店 店主 中島官五郎

謹賀新年 晋州本町(電話六六番) 峰乃屋旅館

謹賀新年
食道樂 奉天西塔大街 新築落成 千鳥 (電話四七番)
奉天附屬地 瀋陽券番 (電話四七番)

謹賀新年
東海生命保險相互會社
朝鮮監督所長 兼大連監督所長 赤羽季吉
本社 東京市麹町區内幸町二丁目
監督所 京城本町一丁目 電話長七四一六番

謹賀新年
株式會社 長春市場
電話五九六番

謹賀新年
京城本町一丁目
(田)平田商店
電話 三一二八番 六九五番
振替京城一〇八三番

謹賀新年
安東縣大和橋通
安東窯業株式會社
(電話一三二番)

謹賀新年
溫陽溫泉
◎腫鴨類群をなし狩獵の好適地なり
◎天安驛より三里自働車にて三十分

平壤 田中玄黄

平壤 齊藤欽二

平壤 自轉車商會 電話六〇六番

旅行中に就き年始の禮を缺く 平壤 本田常吉

平壤覆審法院 鳥山虎也太

平壤慈惠醫院 院長 内村安太郎 外職員一同

平壤覆審法院檢事局 松寺竹雄

平壤地方法院檢事局 關口半

平壤地方法院 前田信兆

平壤警察署 齊藤金祐

鎮南浦中華領事館 領事 胡襄

平壤地方法院新義州支廳 和田四郎

平壤 赤木萬次郎

用達並精米 白米 麥 平壤黄金町 川岡商店 店主 川岡善治郎 電話一六七番

朝鮮新義州 北方木材店

平壤本町 田中新聞舖 電話二八番

平壤賑町券番

滿洲名物馬賊の話

◇◇廣い滿洲は馬賊の世界◇◇

◇馬賊の銃殺＝月下の格闘＝花大人＝蒙古の大平原を風のやうに＝馬賊の頭目となる資格＝馬賊の御幣擔ぎ＝票旗局＝堅い金貸

◇エヽ・午の初春に因みまして――は少々恐れ入るが滿洲三界にまで來たお蔭をもちまして馬賊のはなしを少々むいて見る。◇何も馬賊は……と切り出したところで馬賊には無論旗印しもなければ何々組何隊と記號を入れた印半纏を著て居る譯でもない、學校の先生ならば直ぐに馬賊の定義が考へられる譯だが此奴も頗るあやしいものポンと一發、風の如く來つて風の如く去る要する馬賊は鹿の如きものか

◇捕者 が奉天に參つてから未だ三ケ月も經たぬ間に新市街でさへ既に馬賊から二三軒やられた、中には日本人の質屋の主人がやられる、支那人がやられる、併も滿鐵の附屬地でやるのだから始末に了へぬ。その他省城内の馬賊、田舍の馬賊と來ては日常三度の飯よりも繁くよく『今日は馬賊が銃殺されるから見に行かないか』など、滿洲らしい勸誘に遭ふこともある。要するに馬賊は捕まつたが最後ポンとやられるに決つたものらしい

◇奉天 滿鐵地方事務所に居る若い人の馬賊ばなしは恁うである『去年(大正六年)の初秋の頃であつた、自分は驛の前から西一條の事務所に歸らむとすると俄かにバタ〜と慌たゞしい足音がして二人の支那人が走つて居る。後を追跡する支那人は『止れ〜!!』と云ひながらポン〜と拳銃を射ち出した、青い月光の下に拳銃の火花二つその間に黑い二つの人影は野原に格闘をはじめた、一人は馬賊一人は日本の刑事巡査であつた…』奉天では恁麼ことが珍しくない

◇馬賊 といふ名は何所から來たものか頗る面白い傑作である、『馬賊』に『苦力』は廣い滿洲を代表する名前で當節の『成金』『ハイカラ』と共に新らしき辭典に特筆せらるべき名稱である。

◇少い 馬賊はさて措き大きな賊にはいろんなのが居る、日露戰爭當時の花大人の率ゐた馬賊などは堂々たる軍隊組織で横行したが今でも蒙古の大平原を風の如く過ぐる匪賊の一隊、これ等はいつも洮南鄭北九師團とにらみあつて居るがこれ等は馬賊の尤なるものであらう。

◇馬賊 といへば現時奉天あたりの軍人の頭梁株は大概元が馬賊出身である、奉天あたりの師團でも大隊長位ゐのところは御多分に洩れぬ人達である。

◇馬賊 の頭目になれば部下の子分の一切の世話を燒かねばならぬ、彼等の銃器、彈藥の供給から米鹽の資一切總て親分の負擔である、親分は陽春四節下旬頃から用意して夏の滿洲が丈高く延びた高梁に蔽はれた時期を待てそれ〜部下に武器を渡す、子分共はそれを持て各方面に一稼ぎに出掛け一箇月位ゐの後は豫て牒し合せた一定の場所に會合する、其の時馬賊仲間にも德義があつて掠め奪つた金品は一切私せずに公明正大に分配する。

◇よく 小說などには馬賊の千山などの山寨に立籠るといふやうなことがあるがこれは滿洲を丹波の大江山と間違へたはなしである、馬賊はいくら大部隊になつても曾て一緒には寄集しない、又同じ土地には長くて二日以上停ることがない、彼等は風のやうに村から村へ逃げて行く。

◇頭目 となるには四つの條件が要る、腕節の强いと、逃足の速いと、狙擊の巧みなると、武器彈藥の融通の利く人。

◇沙河 に炭坑主の本庄波衛氏が昨夏開原の奥で田といふ頭目と酒を飲んだ時、田は却々の氣焔をあげた相な、彼はもと楽務長をして居つた男で張作霖と意見が合はずて馬賊となつたが結局此の方が氣樂でよいといつた相な、彼には部下が三百名ばかり居るといふ。

◇恁麼 風で支那の保衞團でも巡警でもよい武器さへあれば馬賊になるんがなあ……と長嘆してゐるものがあるといふ。なか〜物騷な長嘆である。馬賊は一か八かの商賣だけに頗る緣起をやかましく云ふ相だ、本庄氏が異人間になれとすゝめた時も『ヤア、緣起でもない、桑原〜!!此奴ゐ二三日稼がれねエぞ』と手をふつてとう〜風呂に浸つて二三日休むだ事もあるといふ。馬賊があれで御幣を擔ぐから面白い。

◇若し 馬賊に出逢つた時は相手の顏を見ると殺される、突差の間に拳を額に加へ自由にさせて居れば決して危害を加へるものでない、馬賊に言はせると相手が反抗して怖いから殺すので自ら求めて殺したくはないのだ相な、それで支那の旅行は金のないのと身に寸鐵を帶びないのが最も安全の策である。

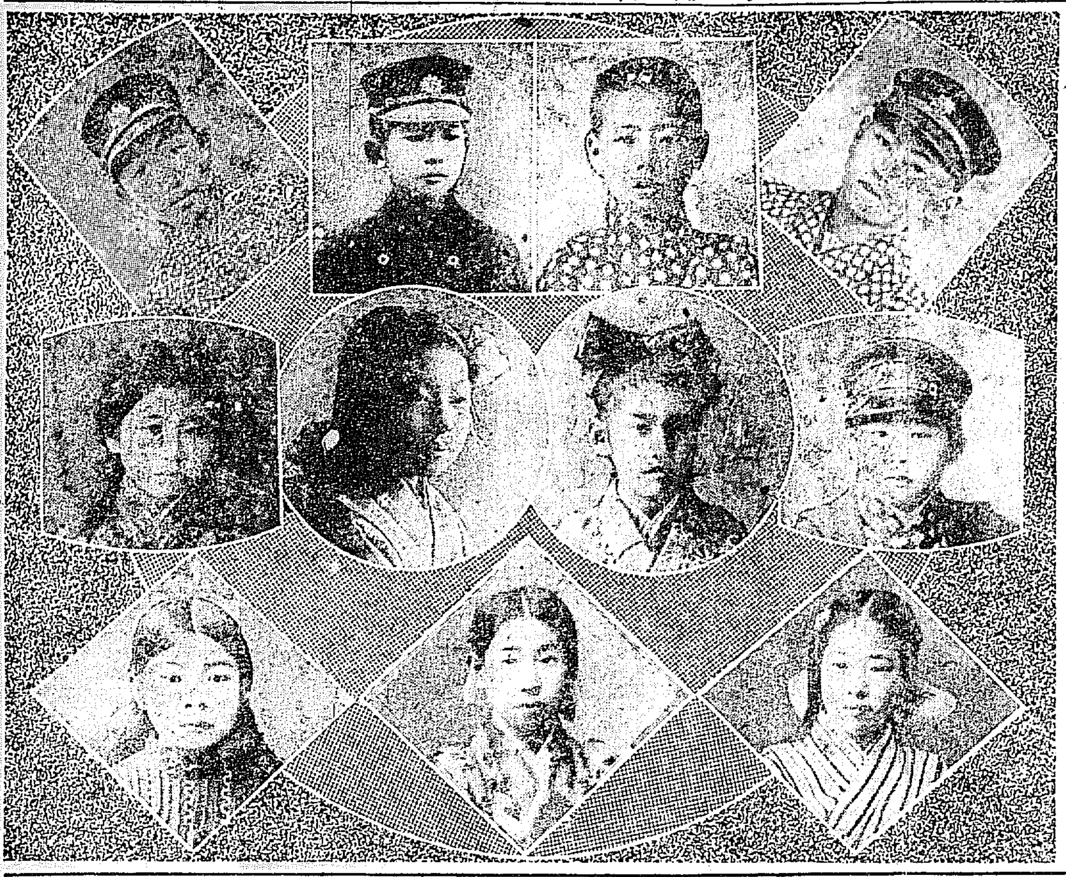
◇尤も 金や荷物を携つて田舍へ入り込む時は票旗局と稱する馬賊除けの保險がある、これは獨り滿洲のみならず直隷、山東到る處に設けてあるが現に奉天城内にも七軒ある、それで此の票局に馬賊保險を支拂つて置けば幾十萬圓携つて行く人と保險家との料金のかけ引がある時には『險くするから持つて行け』などと頗る珍た相談がはじまることもあるといふ。

◇モ一 つは馬賊へ高利貸する店が支那には頗る澤山ある、凡そ世の中に馬賊へ金を貸す程確かなことはないとのことで場合には百圓のかたに一千圓の證文を一札件の如くおいて約束の時には嚴格に持つて返しに來る、凡そ馬賊の金の要る場合は武器彈藥の必要な時とか或は官兵に追はれて急に襲撃して逃げ出す等の急場の時で若し一團十人の中の九人まで殺されても生き殘つた一人が必ず金は返しに來るといふ。

◇何故 かくまでも義理堅いかといふと日本人なら必ず急場を救はれた恩に感じてといふだらうが彼支那人は決して左右ではない、後事は唯だかたくして置けばまたこんどの融通が利くと思ふからで人生意氣に感じたこ飄飲にすると大間違ひ、由來支那人の商業道德が正しいとか何とか云はれるのは多くは右の馬賊の借金流で何れも算盤勘定のはなしである。

◇馬賊 の話しはまだ〜前後何卷かの長尺物なれど先づは此の邊で御免を蒙るべし。ヒヽン!千歳の新年に馬賊のはなしが馬鹿々々しいなどと云ウマい〜（奉天にて 馬骨生）

午年生の孃チヤン坊チヤン



『上段向て右より』村上朝一（村上病院長村上龍藏氏二男）金谷瑾（京城府尹金谷充氏二男）松永武章（京畿道長官松永武吉氏長男）宮館統（遞信部會計課長宮館貫一氏長男）『中段向て右より』三井武夫（京城監獄典獄三井久陽氏七男）井上みつ子（京城技師井上要二氏長女）首藤きの子（首藤完氏長女）渡邊みつ子（遞信局通信課長渡邊次郎氏四女）『下段向て右より』佐々木京子（遞信局計理課長佐々木三郎氏長女）志岐信代（志岐組主志岐信太郎氏長女）釘本千鶴子（釘本藤次郎氏次女）

謹賀新年 公州地方法院永同出張所 古賀清次郎

謹賀新年 黄澗公立普通學校長 西岡五郎

謹賀新年 永同金融組合 理事 平原信

謹賀新年 京釜線黄澗驛 長谷川政吉

謹賀新年 京釜線黄澗驛前 鮮人向綿布雜貨食料品明太商 菅野商店

謹賀新年 京釜線黄澗驛 梅澤定見

謹賀新年 京釜線永同驛 宇都宮善市

賀正 京釜線永同驛 平澤旅館 平澤運送店

謹賀新年 忠南溫泉里 溫陽溫泉 溫陽旅館

謹賀新年 大田幸町 廣島屋事 林喜市

謹賀新年 大田本町二丁目 金物雜貨商 齊藤商店

謹賀新年 大田春日町二丁目 疊商 白尾榮次

謹賀新年 京釜線大田 御料理 日鮮樓

謹賀新年 大田本町二丁目 米穀商 下條商店

謹賀新年 大田本町二丁目 原醫院 原孝一

謹賀新年 大田 藝種商 猪口勝太郎

謹賀新年 大田春日町電話二一一番 御手輕料理 千成

謹賀新年 新古洋服半衿シヤツ類商 大田春日町一丁目 中尾商店

謹賀新年 和洋洗濯洗張一式 大田本町一丁目 中村洗濯所

謹賀新年 各種原藥並に賣藥 大田本町一 電話一五六 三枝藥店

謹賀新年 東京國債株式會社 京城支部 支部長 百岡啓治郎 京城明治町一丁目 電話長一五五四番

謹賀新年 京城黄金町二丁目 米井商店出張所 電話一六九六番

謹賀新年 京城古市町 土井二義 電話一五二二番

謹賀新年 京城漢江通十五番地 渡邊信託社 電話五〇番

謹賀新年 鐵道指定旅館 南大門停車場構内 二見館 館主 篠塚玉 電話六八七番

謹賀新年 京城鍾路一丁目六十番地 洋貨 廣興泰 長電話三五八番

謹賀新年 京城南大門通（黄金町通角） 奥田洋服店 電話六百六十一番 振替京城三四九番

謹賀新年 鋼鐵器械馬匹用具一式 市來商店 京城黄金町二丁目 電話二六九四番

謹賀新年 京城南山町 洋食 玉突 巴州亭 電六三八番

謹賀新年 京城明治町二丁目 小川醫院 產家 電話四二七番

謹賀新年 京城南大門驛前 笑福旅館 電話長一五五一番

謹賀新年 京城本町二丁目 會席御料理 月の家 電話二三四七番

謹賀新年

永同公立尋常高等小學校 肥神秀一

和洋御菓子司 大田本町一丁目 上田商店

大田本町一丁目 山崎小間物店

大田停車場通 山北貞助

御菓子司 大田春日町 田口松月堂

雜貨商 大田本町 小幡庄作

陶器商 大田本町一丁目 篭川商店

桐丸太下駄商 大田本町一丁目 大和屋商店

大田松島町 本田金四郎

大田岐阜町 井上商店

大田 寺田履物店

明治公債株式會社 大田榮町 大田出張所

大田本町二丁目 藤本清七

海陸產物委托問屋 大田春日町二丁目 勝丸治三郎

大田榮町 田鄕印房

大田榮町 安宅兵太

大田春日町 馬場洋服店

京釜線伊院驛 米穀繩叺商 金子惣一

大田本町二丁目 米穀商 今井辰次郎

鳥致院憲兵分遣所 藤田艮彌

鳥致院 竹下剛

鳥致院郵便所長 柴田又三郎

鳥致院面 相談役 尹相武

鳥致院 相談役 朴東根

鳥致院 中島隆衛

鳥致院 兵頭泰

鳥致院 鮮人向雜貨商 田中商店

鳥致院 米穀商 南田商店

大日本勸業株式會社朝鮮出張所 內山民之祐

鳥致院 米穀商 上野八源商店

謹賀新年 書籍文具並に入札役 佐々木寶古堂 京城南山町三丁目 電話二弐二三番

龍山金物組合 賀正 尾崎金物店 三笠金物店 島田金物店 柴田金物店 毛利金物店

謹賀新年 京城本町二丁目 東京天ぷら丼料理仕出 松金 電話六八六番

謹賀新年 銘酒 鯉正宗 高麗菊 釀造元 京城府龍山停車場前 ㊂丸三酒場 電話三〇三番 振替京城二九六二番

謹賀新年 活版石版一式並 和洋帳簿製造 中島印刷所 京城旭町一丁目 電話二千百八番 振替京城二百二番

謹賀新年 セメント石灰 青竹色土色砂 布海苔苆商 左官材料一式 京城府漢江通一三 戶張商店 電話五三四番 振替五三三四番 京城本町二丁目 戶張支店 電話一四七番

謹賀新年 京城本町二丁目三十九番地 太平堂印刷所 電話二七二番

謹賀新年 京城旭町一丁目 會席御料理 壽美家 電話一三四三番

謹賀新年 大田溫泉株式會社

謹賀新年 京釜線金泉在住 官公吏一同

謹賀新年 大田公立尋常高等小學校 職員一同

謹賀新年 合名會社鈴木商會 永同繰綿工場 宮崎芳之助

謹賀新年 NOBEL'S GLASGOW CXL No1.GELIGNITE 京釜線黄澗驛前 銃砲火藥商 ㊂三共商會 振替京城一六二五番

謹賀新年 徴兵保險大田代理店 飲料氷貯藏販賣並ニ牛乳販賣 畑孝三郎 大田 電話一二九番

謹賀新年 京釜線黄澗驛前 鑛業並金銀分析所 中山八百助

謹賀新年 會席御料理 大田 松月 電話二三一番

謹賀新年 大田旅館組合 千歳旅館 中川旅館 大田旅館 笹山旅館 對馬屋旅館

落語 初夢
三遊亭金馬口演

明まして御目出度う存じます。當年も相變らず御贔負を願ひます。所で今年は午年の事故、午に縁のある落語家に一席演らせやうとか云ふので、御選みに預りましたのが金馬ださうで、何が幸ひになるか分りませんものでございます。其の代り名前に馬と云ふ字の附く處ですから、人間は至つてお目出度い方でございます。其のお目出度い落語家が、御目出度いお噺を申上げやうと云ふのですから、こんなお目出度い事はございません此の新聞を御覧になつた御客様は必ず今年は商年に倍增して御運がお宜しうございます、『お正月は松竹注連飾り、歳始の御祝儀年玉投込んで』唄にもございます通り誠に宜い心持のものでございます夜分になると皆様お集りになつて歌骨牌双六福引などと思ひ〳〵のお面白い事をしてお遊びになります、二日は初荷、陽氣なものでございますな、昨年來好景氣の事ですから當年は又一層賑かでございませう、夜になりますと、お寶〳〵と云つて賣りに參ります、其の寶船をお求めになりまして、枕の下へお入になつてお寢なさいますとお目出度い夢を御覧になると云ふ事でございます、或る成金の旦那様が番頭さんをお呼びなすつて、

主『扨昨年中はお前始め店の者一同が能く働いて呉れたので、思ひの外の利益がありました、何でも家業といふものは、一家和合して圓滿に働かなければ家業繁昌はしません、大きく例ふれば、一國の國民が豊になれば、從つて其の國も富で來ます、一軒の家でもさうです、奉公人一同が皆運が宜ければ、自然店も繁昌をします、處で今夜一ツ寶船を買て、皆なに一枚づゝ遣つて、各々に宜い夢を見させ、今年は運宜く暮して貰ひ度いと思ふ、其れで明日の朝皆なの見た夢を聞いて、其の中で一番宜い夢を見た者には褒美をして十五圓上げます、二等には十圓、三等には五圓遣らう 支『其はどうも結構でございます 主『又其に準じてお目出度い夢だつたら其々景物を出す事にします 番『結構でございます 主『お前さん店に居て寶船屋が來たらどうぞ呼んで下さい 支『ヘエ、宜しうございます』店へ出て參りますと丁度宜い鹽梅に大きな聲をして、威勢の宜い寶船屋『寶お寶〳〵寶船〳〵 番『オ、寶船屋さん 寶『ヘエ〳〵 番『寶船を買ひますよ 寶『ヘエ 番『何の位有るね 寶『何の位と云つて數が知れません 番『イヤ數の知れぬ程寶物がある、目出度い、悉皆買て上げやう、幾らだね 寶『大樣でございます、十萬圓ばかりにお負け申て置きませう 番『十萬圓、そんな冗談を云はないで、普通の價を言ひな 寶『ヘエ負ろと云へば負けます 番『ちやアマア一圓ばかり下さいな 番『大變な違ひだな、十萬圓と一圓とは……其れで宜いのかね 寶『ヘエマア夫れで宜しうございます、悉皆御買て行きます 番『ア、寶船屋さん、臺所へお廻り酒を御馳走するから 寶『どうも御馳走様で』其から寶船屋を臺所へ廻して御馳走をして歸しましたサア旦那様はお樂しみで 主『番頭や 番『ヘエ寶船屋が參りましたから十萬圓買ひました 主『ナニ寶船を十萬圓買つた其は目出度いよ 番『ヘエ寶の數は知れないと申ました 主『面白い奴だよ 番『其の寶物は一圓で御當家の手に入りました 主『さうかね、ちやア其の寶船を皆に分てやつてお呉れ』是から家中の者に寶船を分配致します。小僧さんなどは大喜びで、どうかして一番宜い夢を見て、一等賞を貰はうと云ふので、寶船を澤山貰つて來まして、身體へ貼附けたり、床の上へ敷いたりして、宛然寶船の中へ轉つて居るやうな騷ぎでございます、權助などは、乃公も宜い夢を見べいと云ので、寶船で觀世捻を拵まして、其を腹帶にして寢ました御主人はお樂で夜の明るのを待兼て、早くお起きになると眼揚格子の內へ景品を山のやうに飾て待てお在なさる處へ、一番早いのが番頭さん 番『エ、旦那様お早うございます 主『イヤ番頭か、どうだい夢を見たか 番『ヘエ先づ私の夢が一等でございませうな 主『ハアどんな夢を見た 番『昨晩私は枕に附きますと、宜い心持にグッスと寢込んで了ひました 主『ウム 番『其の內に何時か私が富士山の途中まで登つて居るんでございます 主『ヘエ、 番『スルとバサ〳〵と甚い音が致しましたからヒヨイと仰向て見ますと、雌雄でございませう鷹が二羽居りました不圖又下を見ますと、一圓の茄子畑でございます 主『面白い夢だな 番『一富士二鷹三茄子と申しまして、是が夢の司ださうで、是より上の宜い夢はございますまい 主『ウム、其は結構な夢を見た景物を遣りませう、お前のが一番宜さうだから、一等賞十五圓遣らう 番『有難う存じます 主『目が覺めたら後を寄越なさい』番頭さん景物を貰ひまして、ニコ〳〵して歸つて來ると、若い衆の佐兵衛と云ふ男が 佐『番頭さんお早うございます 番『佐兵衛さんお目出度い夢を見たかね 佐『ヘエ、貴所は夢を御覧なすつたか 番『乃公は見たよ、此の通りだ 佐『アン景物をお貰ひなすつたね 番『ウム、初ツ端の一等で十五圓戴いた 佐『ヘエー、旨くやりましたね、一體貴所の夢はどういふ夢なんで 番『どういふ夢さ云つてお前はどうした 佐『ヘエ、私は實は夢を見ないんで 番『見なくつちやア景物は貰へない、仕方がないから諦めるんだ 佐『ですけれども私も景物を貰ひ度うございます、貴所の夢を少し貸して下さいな 番『同じ夢ちやア訝しいね 佐『マア宜うございます、大丈夫で眞似はしません、どうか聞して下さい 番『參考までに、どういふ夢だか 番『乃公の夢は昨夜寢ると富士の途中まで登つた、スルと途中に鷹が二羽居る、下を見ると一圓茄子畑其で一富士二鷹三茄子と云て夢では是が一番だ 佐『成程其で景物を貰つたんですか、どうも有難うございました 番『眞似をしちやアいけないよ 佐『大丈夫で……ヘエ旦那様お早うございます 主『オ、佐兵衛か汝夢を見たか 佐『ヘエ、私の夢が一番宜しうございます 主『どんな夢を見た 佐『ヘエ、昨晩寢ますと私が富士へ登りました 主『お前が 佐『途中を見ますると鷹が二羽居ります 主『ハヽア 佐『下を見ると一圓の茄子畑、一富士二鷹三茄子と云つて、夢では是が一番宜いのださうで 主『ハヽア番頭と同じやうな夢だ、寶船はどうも其の夢ばかりかしらマア〳〵宜しい、褒美を遣らう、併し一等は遣れない、先着があるから、二等賞として十圓遣りませう 佐『どうも有難う存じます』景物を貰つて歸つて來ると權助が目を擦り〳〵起て參りました 權『ヤアお早うございます 佐『オイ權助どんどうしたね 權『ヤア貴郎景物貰つたな 佐『さうさ 權『貴郎どんな夢見たか 佐『[illegible]見ない、番頭さんから夢を聞て行て、景物を貰つて來た 權『ハーア番頭さんの夢を貴所が貰つたのかちやア、どうだ、乃公がにハア、チョツクラ貸して貰ひてね 佐『さう幾人も同じやうな夢があつちやアいけない 權『ナーニ大丈夫だ 佐『お前はどうした、見たか 權『其がよ、乃公昨夜好い夢を見べいと思つて、寶船を澤山貰つて、身體から床の上まで敷けた寶船の中に轉つて、今に夢が來るか〳〵と俟アて待て居ただ、スルと貴所ハア逢々夢を見ねね內に夜が明て了つた 佐『ちやア何だね、寢なかつたのだね、夢と云ふものは寢なくちやア見ねね 權『だがよ、乃公だつて夢を見なくつても景物は貰ひてねや、番頭さんの夢をチョツクラ貸してお呉れ、どんな夢だかハア聞かして貰ひてね 佐『番頭さんの夢は富士の途中まで登つたので、途中に鷹が二羽居たんで、下を見ると一面に茄子畑、一富士二鷹三茄子と云て是が夢では一等だ 權『其で景物を貰つたのか、其なら乃公もやるべね 佐『オイ〳〵さう幾人も同じやうな夢ちやアいけないよ 權『ナーニ大丈夫だ……ハイ旦那様お早うございます 主『ア、權助か、どうだ汝夢を見たか 權『見たかの何のつて結構な夢を見た 主『どんな夢を見た 權『昨夜ハア寢[illegible]寶船を貰つて行て、宜い夢を見やうと思つて、寶船の中へ轉つて寢て居ると、貴所山があつて[illegible]テナ、矢ツ張[illegible]……富士山かな 權『其な貴所筑波山よ 主『ハア筑波山か 權『[illegible]でがす、スルと途中に鷹が二羽居たでがす 主『ハア、鷹かな 權『一二貫匁位な 主『[illegible] 權『下を見ると一面に畑があつたと 主『ハア、シテ見ると茄子畑かな 權『ナーニ貴所、南瓜畑……南瓜畑 主『其アお前何と云ふ夢だね 權『一筑波、二鷹三南瓜と云ふのでがす 主『其は大違な夢だ、併し面白い夢だから意外として三圓遣らう 權『何も有難うがす只貰た様な者でがす 主『ナニ 權『ヘエ有難うがす 主『彼のお庭たら遣しなよ 權『ヘエ畏りました』入違つて入つて來たのが丁稚の長松 長『ヘエ旦那様お早うございます 主『オ、長松かどうした汝夢を見たか 長『ヘエ旦那、小僧だつて人間でございます、寶船の中へ轉がつて寢たんですもの、どうしたつて夢を見ずには居られませんや大變な夢を見ちまつたんで……先づ私の夢が家中で一番です、最[illegible]ですな 主『生意氣な事を云ふなどんな夢だ 長『一等ちやア厭です特等景物を下さい 主『其ア次第に依たら特等でも何でも遣るが、話さなければ駄目だ、先へ話せ 長『話を聞ちまつて後で遣らないなんざア厭ですよ 主『そんな事をするものか、大丈夫やるから話せ 長『其ぢやアお話をしますがね、私がお店番をしながら居眠をして居たんでスルと表の戸をドンドンと叩く人があるんです何誰様でございますと云と御免下さいましと女の聲でございます 主『ウム 長『何誰様ですか當家は十時限りでございます、お買物なら明日にして下さいと斯う云つたので、スルと優しい女の聲で、あの此方様に長松さんと云ふ小僧さんは在つしやいますかつて私を尋ねて來たんで、其から私が長松は居りませんと斷ると私の聲を先方の女が知つて居るんで、貴所が長松さんぢやアありませんか、態々尋ねて來たんだからどうぞ開けて下さいと云ふんで……冗談云つちやアいけません、貴女のやうな人は入れる事が出來ませんと斷つたんで……スルと開けないと小窓から入りますと云ふから、變な事を云ふと思つて戸の隙間から覗いて見ると、家の門口に立つて居るのは辨天様で 主『ウムア何か、辨天様がお前の處へ尋ねて來たのか 長『ヘエ、さうでございます、辨天様が私に惚て居るんで 主『厭な奴だな 長『私の[illegible]をして居たんで、何處から來ましたと[illegible]から脫出して來たと[illegible]ました[illegible]臺でしたが辨天様が、[illegible]を着て、[illegible]で美い女[illegible]戸を開けたんで、[illegible]店へ入つて來まして、どう[illegible]婦になつて呉れろ、お內儀さんに持つて呉れろと云ふんで、[illegible]はまだ年が小僧だから、どうも[illegible]さんなどは持てない、年期が明けたら何れ御相談を致しますから其までお待ちなすつて下さいと云ふと、どうしても肯かないんで、モウ此方の御主人に話がしてあるんだから貴郎さへ宜ければ今晩にも婚禮が出來るんだと、どうしても辨天様が承知しないんで、から私が旦那の處へ來てお話をしたんで、スルと旦那が仰しやるには、ちやア宜い乃公が媒酌人になつて婚禮をさせてやらうと云ふので愈よ辨天様と私が夫婦になつて其で私が此方の御新子になりました、スルと私が辨天様と夫婦になつたと云ふ大變な評判で、どうも家が繁昌をして、御金が澤山出來て嬉しかつたんで、快い心持になりました、處が目が覺て了ひました 主『何だ其でお終ひか、併しどうも結構な夢を見て嬉しいから、特等で、景物を遣らう……何だ權助其處を閉めて 權『イヤ貴所今まで晴て居たのが急に曇つて雨が降て參りました 主『ナニ雨が降て來た、待て〳〵縁起が惡いな、折角此處で目出度いと思つたのに、雨が降るとは氣になるな 長『ナーニ旦那雨が降つて來たのは、縁起が宜うございます 主『雨が降て縁起が宜いとはどういふ譯だ 長『寶船で辨天様の夢を見たから 主『ナニ寶船で辨天様の夢を見たからとは 長『雨が降て來ても縁起が宜うございます、旦那能く考へて御覧なさい、ふるは千年、あめは萬年と申します。（今村信雄速記）

▲廣告▼

臨時土地調査局
賣買
一、紅松及檜板材 各種
詳細ハ二十九日以降ノ朝鮮總督府官報ニアリ

謹賀新年
慶尚南道一部長
佐々木正太

謹賀新年
各官署御用達
菓子商 雜貨商
原田商會
奉天縣德大街道

謹賀新年
和洋雜貨 文房具商
全南木浦
大岡商店
電話一五四番

同
全南光州
大岡支店
電話一八番

謹賀新年
活字製造販賣 活版印刷 印刷機械販賣 活版石版印刷
竹內活版製造所
京城明治町二丁目四八
電話三〇四〇番

謹賀新年
朝鮮煙草元賣捌所
株式會社 三共商會
群山 全州
電話（長）三二四番
電話（三）又は（サン）

謹賀新年
奉天鐵道附屬地
會席御料理
穂積館
電話一五六番

謹賀新年
大邱旅館組合
泉花吉吉唯田小森
屋田田宗中山田
旅旅旅文本旅
館館館館店店館館

謹賀新年
奉天鐵道附屬地
會席御料理
五角

謹賀新年
京城本町四丁目
産婆 川村ノリ
電話二三六三番

謹賀新年
奉天鐵道附屬地
會席御料理
山口樓
電話五五九番

謹賀新年
本店 咸鏡北道清津府大和町 電話二七〇番
出張店 京城府大和町一ノ四 電話九五七番
北鮮鑛業所
齋藤新太郎
出張所 大連市監部通一丁目四十五番地 齋藤洋行 電話一七六三番
住宅 東京市麴町區富見町二丁目三番地 電話番町六七五番

謹賀新年
安東縣市場通七丁目
貿易商 三省洋行
電話五二四四〇番 中華電話九四番
同 四番通六丁目
三省洋行植木部
電話二〇一番

謹賀新年
品質第一 宅合名會社銘醸
宅正宗 光武
釀造發賣元 宅合名會社
特約販賣店
仁川本町四丁目 田中作商店
同 花町 上城商店
京城本町二丁目 藤田商店
同 明治町 牧野商店
同 南米倉町 村田商店
龍山元町 藏城商店
鎮南浦三和町 松浦酒店
安東縣四番通 龜屋支店
咸興本町 玉植商店
水原城內 平田商店
大邱錦町 金谷合名會社
群山 古川商店
木浦 中柴商店
同 伴商店
釜山西町二丁目 伊勢商店
清津明治町 福田商店
羅南生駒町 矢野商店
矢野支店

謹賀新年
安東縣市場通五丁目
安東貯金銀行
電話一六八番
同舊市街財神廟街（支那電話一五二番）
舊市街支店

賀正
京城新町遊廓
組合員一同